

2015 平成27年 教室年報



岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine
Department of Surgery: Annual Report 2015

巖刀会(外科学講座同門会)



外科学講座の歴史

外科学講座の歴史は古く岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校の創立1年後の昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡る。

その後、昭和5年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹が教授となり、昭和19年には瀬田孝一が教授に昇任した。

昭和24年に医科大学に昇格し、昭和31年第2外科の開講に伴い外科学第一講座となった後も、瀬田は在任35年間にわたり当教室の基礎を築き、大きな発展をもたらした。

昭和54年の瀬田の退職後、同年東北大学第2外科助教授の森昌造が教授に赴任した。各疾患別グループ制を確立し、研究活動にも大きな躍進がみられた。

昭和61年森が東北大学第2外科教授へ転任し、昭和62年6月に斎藤和好が外科・内科では初の母校出身の教授に昇任し、良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承、内視鏡手術等の外科学の更なる進歩に貢献した。

平成17年斎藤の退職後、同年9月慶應義塾大学外科学専任講師の若林剛が教授に就任、患者様を中心として最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を基盤として、内視鏡外科の指導的施設としての発展と北東北での肝移植を実現した。

平成27年8月に同科准教授 佐々木章が教授に就任した。



外科学講座の 広報活動

当科では我々が行っている最新医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとするさまざまな医療関係者の方々にご理解を頂くために、ホームページの充実を図っております。先進医療の内容をトピックスとしてアピールするとともに、スタッフのプロフィールも公開しております。「主治医の顔と人となり」を少しでもお分かり頂くことで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内やイベント終了後のレポートも随時掲載しております。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。



教室年報 (2015年)

岩手医科大学医学部外科学講座同門会

CONTENTS

巻頭言

ごあいさつ 外科学講座教授 佐々木 章

003 外科学講座スタッフ紹介

005 日本内視鏡外科学会報告

007 グループ紹介

上部消化管グループ《食道》・上部消化管グループ《胃》・乳腺グループ・内視鏡外科グループ・肝胆膵グループ・下部消化管グループ・リサーチグループ《分子治療研究室》・小児外科グループ・緩和ケアチーム・高度救命救急センター・岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

021 平成26年診療状況

入院患者分類／関連病院手術件数

022 コンセンサスミーティング報告

023 研究業績

035 編集後記

036 協賛広告



岩手医科大学医学部外科学講座
教授

佐々木 章

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.
Professor and Chairman

当教室の歴史は、1928年の岩手医学専門学校設立と共に始まり、1944年に故瀬田孝一教授により外科学第1講座として開講されました。第2代森 昌造教授、第3代斎藤和好教授を経て、第4代若林 剛教授赴任後の2006年には外科系講座の再編が行われ、外科学第1講座と外科学第3講座の小児外科が統合され、国内でも有数の外科学講座となりました。私は、2015年8月1日付けで第5代外科学講座の教授を拝命いたしました。

自己紹介となりますが、私は岩手県花巻市生まれ（岩手県立花巻北高等学校卒）、1988年に金沢医科大学医学部を卒業後、同年5月に外科学講座第1講座に副手として入局いたしました。入局直後に食道良性グループ（渡辺正敏講師）に所属し、当時高侵襲手術であった食道静脈瘤に対する食道離断術、食道アカラシアに対する左開胸下Fundic patch手術などで初期教育を受けました。また、食道癌グループへのローテーションも多く、周術期管理でICUに連日当直する毎日でした。この背景から臨床

を行いながら、「胸部食道癌に対する後縦隔経路頸部吻合術後の嚥下機能と誤嚥発生機序」というテーマで1994年に学位を授与していただきました。また、卒後7年までは、岩手県立宮古病院（日下純男先生、八島良幸先生）、久慈病院（遠藤秀彦先生、伊藤達朗先生）、山本組合病院（小野雄司先生、別所啓司先生、大津友見先生）、函館五稜郭病院（鎌田国尋先生、金森 裕先生）などの関連病院で外科修練を受けました。1990年代に入り、食道静脈瘤に対する外科治療の変遷により硬化療法・結紮療法などの内科治療が増加し、食道良性グループの手術数は激減していきました。また、1992年に腹腔鏡下胆嚢摘出術が保険収載されて以来、爆発的に内視鏡外科手術が行われるようになりました。私が所属していた食道良性グループはこの内視鏡外科手術に対応するように斎藤教授からご指示があり、私は1995年に内視鏡外科グループチーフに任命されました。その後、約20年間にわたり内視鏡外科手術の安全な導入と普及に努めてきました。

k i r a S A S A K I

M.D., Ph.D. Professor and Chairman

2015年4月現在、外科学講座の大学在籍者数は36名、関連病院への短期・長期出張の医師数は60名です。教室における診療領域は広く、内視鏡外科・肝胆膵、食道、胃、下部消化管、乳腺、小児外科、高度救命救急センター、リサーチグループから編成されています。2014年の診療実績では、入院患者数は1,286名で過去最高、総手術件数は1,207例と過去最高を記録した2012年（1,210例）とほぼ同等でありました。手術は、可能な限り低侵襲な内視鏡外科手術を選択しており、2014年の主要疾患に対する胸腔鏡・腹腔鏡（補助）下手術の比率は、胆嚢良性疾患100%、内分泌代謝疾患（高度肥満症、副腎疾患、甲状腺疾患）100%、大腸癌90%、食道癌74%、胃癌66%、肝癌50%であり、技術と安全性においては国内外から高い評価を受けています。フルビデオで審査を行う日本内視鏡外科学会技術認定医制度の2014年度平均合格率は29%と厳しいですが、教室では現在までに22名を輩出しており、大学には各診療領域の技術認定医7名が常勤しています。最近、肝臓・膵臓疾患に対する腹腔鏡下手術の合併症が報道で問題にされておりますが、主要疾患に対する内視鏡外科手術の偶発症・合併症発生率（日本内視鏡外科学会アンケート調査結果/教室の成績）は、食道癌（31.2%/3.4%）、大腸癌（6.1%/0.6%）、胃癌（12.3%/1.7%）、肝癌（6.9%/1.6%）であり、教室における内視鏡外科手術の偶発症・合併症は極めて少なく、安全な手術が実施されています。

このような低侵襲治療を行う一方で、進行肝癌、胆嚢癌、膵癌や食道癌の集学的治療も積極的に行い、2007年1月には岩手県第1例目の生体肝移植が成功して以来、2015年8月までの肝移植数は67例（生体62例、脳死5例）となりました。教室における生体肝移植の平均生存率は、術後1年82%、3年77%、5年73%であり、成績は全国平均以上であります。

各領域で安全な手術の導入と手技の定型化ができた現在、矢巾新病院移転に向けて、今後は各手術器具と病床利用率の効率化による費用削減が課題と思います。

診療能力の向上は研究推進と表裏一体と思いますが、この基盤として教育が最も重要と考えております。私をご指導を受けた斎藤教授は開放的な教育環境を重視、若林教授は斎藤外科で育った教室員とともに診療実績を向上させ、教室を飛躍させてきました。私が入局した時の診療グループは、甲状腺は佐々木純助教授（歯学部教授兼任）、肝胆膵は菅野千治助教授、大腸癌は吉田 博講師、胃十二指腸良性は旭 博史講師・阿部 正助手、乳腺上皮小体は石田茂登男講師、胃癌は佐藤雅夫講師、食道良性は渡辺正敏講師、食道癌・代謝栄養は石田 薫助手・岡本和美助手と、「開創手術の達人」で編成されておりました。現在の各診療グループ長は、「内視鏡外科手術のエキスパート」と言っても過言ではないと思いますが、国内で認知される外科医として育てております。私は教室に27年間在籍しておりますが、次のステップとして各診療領域における次世代の指導者の育成が急務と考えております。そして、「外科学の進歩、医療を取り巻く環境と社会情勢の変化に即座に対応できるような外科医の育成」のために、「教室員の意向に沿ったテーラーメイド教育を重視し、独創的な高い研究能力と教室のエビデンスを世界と将来に発信できる国際性豊かな後進の育成」を目標として、誠心誠意努力する所存です。

今後とも、巖刀会の諸先輩方のご支援を賜りながら、教室が新たな一步を皆で踏み出せるよう、そして教室員一同が結束し、教室のさらなる発展を目指していきたいと考えております。一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



助教(任)
松井雄介
〔平成22年卒〕

助教(任)
眞壁健二
平成21年卒

助教(任)
久米浩平

助教
秋山有史
平成11年卒

助教(任)
吉田雅一
〔平成20年卒〕

助教
塩井義裕
〔平成13年卒〕

助教
木村聡元
〔平成14年卒〕

助教(任)
西成悠
〔平成19年卒〕

大学院生
安藤太郎
平成24年卒

助教
石田和茂
〔平成17年卒〕

助教
高原武志
平成12年卒

助教
武田大樹
〔平成20年卒〕

大学院生
瀬川武紀
〔平成25年卒〕

非常勤講師
杉立彰夫

秘書
館藤美智子

秘書
鈴木千里

特任講師
伊勢一哉
〔平成4年卒〕

講師
西塚哲
〔平成6年卒〕

講師
新田浩幸
〔平成5年卒〕

講師
肥田圭介
〔平成元年卒〕

教授
佐々木章
〔昭和63年卒〕

講師
木村祐輔
〔平成6年卒〕



- | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|---------------------------|---------------------------|------------------------|-----------------------------|-----------------------------|---------------------------|---------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------|
| 助教
千葉 丈広
〔平成15年卒〕 | 助教
片桐 弘勝
〔平成16年卒〕 | 助教(任)
上嶋 徳
〔平成20年卒〕 | 外国人研修医
TSUNG-HAN WU | 助教(任)
八重樫 瑞典
〔平成21年卒〕 | 助教(任)
小林 めぐみ
〔平成19年卒〕 | 助教(任)
石田 馨
〔平成18年卒〕 | 特任助教
吉田 宗平
〔平成23年卒〕 | 助教
馬場 誠朗
〔平成16年卒〕 | 助教
箱崎 将規
〔平成15年卒〕 | 秘書
伊藤 安理加 |
| 准教授
水野 大
〔昭和62年卒〕 | 大学院生
伊藤 千絵
〔平成18年卒〕 | 大学院生
天野 総
〔平成25年卒〕 | 講師
大塚 幸喜
〔平成5年卒〕 | 講師
岩谷 岳
〔平成7年卒〕 | 秘書
一戸 美香 | 大学院生
伊藤 千絵
〔平成18年卒〕 | 大学院生
天野 総
〔平成25年卒〕 | | | |

第27回日本内視鏡外科学会総会 (2014.10.2-4)



開会式



拡大プログラム委員会
斎藤和好名誉教授による乾杯のご挨拶



国際名誉会員



企業展示 ダヴィンチも展示しました



会長講演は満席でした

日本内視鏡外科学会報告

佐々木 章

第27回日本内視鏡外科学会総会は、お蔭様をもちまして多数の先生方のご参加をいただき、盛会のうちに無事に全日程を終了することができました。心よりお礼申し上げます。また、岩手医科大学外科巖刀会と慶應義塾大学外科刀林会の皆様、厚いご支援、誠にありがとうございました。

本総会では、メインテーマを「Improving Quality of Endoscopic Surgery」とし、準備委員から多数の主演題(特別企画12、シンポジウム30、パネルディスカッション28、ワークショップ42題)をご提案いただきました。海外招待者講演も充実させ、国際名誉会員記念講演、ELSA/JSES Joint Symposium、SAGES/JSES Joint Symposiumを企画、Award Sessionとしては、「研修医・専修医の15分ビデオ」、「安全で質の高い内視鏡外科手術を目指したメディカルスタッフの取り組み」を要望演題として企画いたしました。会員数が

1万人を超え、発展し続ける本学会ということもあり、演題数は昨年よりも順調に増加し3,024題という過去最多の演題応募をいただきました。盛岡駅周辺の4施設を利用し、計26会場で568セッション、指定演題を含めて総演題数3,280題のプログラムが開催されました。参加者総数は3日間で5,089名となり、企業展示の出展者と報道関係者の1,298名を加えると6,387名の方が盛岡にいらしていただいたことになります。学会期間中の盛岡は、日中は学会で、夜は食事会や情報交換会で毎日盛り上がりおりました。ランチョンセミナーでご用意した岩手県内27の名店による特別弁当は好評で、弁当が足りない事態が起こってしまいました。また、事務局が手配した宿泊者数は3,976名で、延べ7165泊されました。宿泊確保が困難であった会員の皆様には多大なご迷惑をおかけいたしました。ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

第27回日本内視鏡外科総会は、参加者していただいた皆様の記憶に残り、教室員には大きな誇りと達成感が残る総会として終了できたことと思います。これもひとえに、会員の皆様方のご協力とご指導と賜物と深く感謝申し上げます。



大上賞受賞者記念講演



全員懇親会 もう入りません



君こそ未来の内視鏡外科医
ロボット手術の模擬体験



市民公開講演会（みんなで学ぼう！
最新の手術）小原 航教授のご講演



市民公開講演会（みんなで学ぼう！
最新の手術）赤川次郎先生のご講演



閉会式

上部消化管グループ《食道》

STAFF：岩谷 岳・秋山有史・塩井義裕・遠藤史隆

専門外来

火曜
8時30分-16時30分

食道癌の治療を担当しています。毎週火曜日の「食道専門外来」では、主に治療後のフォローアップや、ご紹介いただいた患者様の診察を行います。早期癌から高度進行癌まで当科が中心となり消化器肝臓内科、放射線科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、緩和医療科と連携し治療にあたっております。手術療法では胸腔鏡・腹腔鏡を用いた低侵襲手術や多職種で構成された周術期管理チームの術前からの介入により成績向上につとめています。高度進行癌症例におきましても化学・放射線療法・手術を組み合わせ治療を積極的に行うことにより治療成績の向上を目指しております。また、われわれは日本臨床腫瘍グループ（JCOG）に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発に携わっております。食道癌の治療につきまして、いつでもご相談をお受けいたしております。是非お気軽にご連絡下さい。

連絡先 岩谷 岳 E-mail: tiwaya@iwate-med.ac.jp

平成26年のニュース

- 1月 ▶ 木村祐輔講師が緩和医療学科特任教授に昇進されました。
- 4月 ▶ 周術期管理チーム（POST）始動
塩井先生食道班配属（久しぶりの新人）
岩谷 アメリカ癌学会にて発表（サンディエゴ）
- 9月 ▶ 岩谷、秋山 国際食道疾患会議にて発表（バンクーバー）
- 11月 ▶ 伊藤直子先生学位取得

平成26年 診療・研究状況報告

●新規食道癌入院：63名

食道癌手術：35名（胸腔鏡下食道切除術：26例）

●食道癌手術年次推移 全切除数（うち胸腔鏡下手術）

2010年 26(12)件、2011年 25(11)件、2012年 29(23)件、
2013年 27(15)件、2014年 35(26)件

●平成26年研究報告

【教室内】

- ・胸部食道癌術後感染性合併症と血糖値に関する研究
Ito N et al, *J Gastrointest Surg.* 2014.
- ・食道癌切除術後、アミノ酸付加末梢静脈栄養補助療法の検討 論文投稿中
- ・進行食道癌に対するDocetaxel/Cisplatin/5-Fu療法の検討 論文執筆中
- ・食道癌術前化学療法と術後感染症との関連性の検討
鴻巣ら、日本外科感染症学会雑誌、In Press.
- ・次世代シーケンサーを用いた食道扁平上皮癌における網羅的遺伝子変異解析（九州大学別府病院外科と共同研究）論文投稿中
- ・17番染色体長腕上の食道扁平上皮癌原因遺伝子の同定
文部科学省科学研究費 基盤研究C（研究代表者 岩谷）論文作成中
岩谷ら、日本臨床、In Press
- ・癌細胞・癌関連線維芽細胞におけるヒストンmRNAmicroRNA代謝経路を標的とした癌治療法開発に向けた基礎研究 文部科学省科学研究費 基盤研究C（研究代表者 岩谷）解析中
- ・新規がん抑制遺伝子TPR511の解析 文部科学省科学研究費 基盤研究C（研究代表者 秋山）解析中
- ・胆道良性および悪性疾患における分離腺管のエピジェネティクス解析 文部科学省科学研究費 若手研究B（研究代表者 塩井）

・食道癌肉腫の分子生物学的解析による食道癌・間葉系機構の解明 文部科学省科学研究費 若手研究B（研究代表者 鴻巣）

・消化器癌の予後に関わるlong intergenic noncoding RNA (lincRNA) の解析 解析中（岩谷）

・食道癌患者における血漿中遊離DNAにおける遺伝子変異モニタリング（遠藤）

・食道癌化学療法・放射線療法後の遺残腫瘍における遺伝子プロファイリング（天野総）

【全国規模】

・JCOG0502「臨床病期Ⅰ（Clinical-T1N0M0）食道癌に対する食道切除術と化学放射線療法同時併用療法（CDDP+5-FU）のランダム化比較試験」追跡中。

・JCOG0909「臨床病期Ⅱ/Ⅲ（T4を除く）食道癌に対する根治的放射線療法 +/- 救済治療の第Ⅱ相試験」追跡中。

・JCOG1109「臨床病期ⅠB/Ⅱ/Ⅲ 食道癌（T4を除く）に対する術前CF療法/術前DCF療法/術前CF-RT療法の第Ⅲ相比較試験」

・JCOG1314「切除不能または再発食道癌に対するCF（シスプラチン+5-FU）療法とbDCF（biweekly ドセタキセル+CF）療法のランダム化第Ⅲ相比較試験」

・JCOG1213「消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌（NEC）を対象としたエトポシド/シスプラチン（EP）療法とイリノテカン/シスプラチン（IP）療法のランダム化比較試験」

●今後の研究課題

- ・根治的放射線化学療法後のSalvage surgeryの積極的な実施。
- ・食道切除術の手術件数を増加させる。
- ・高度進行食道癌に対する新規治療法の開発。

上部消化管グループ《胃》

STAFF：肥田圭介・藤原久貴・千葉丈広・野田宏伸

専門外来

木曜
8時30分～16時

胃グループの診療はこれまでの肥田、藤原、千葉の3名に加え4月から救急センターでの研修を終えた野田の計4名のメンバーにて診療でStartしました。メンバーがやっと増え少しは余裕が出るかと期待しておりましたが、国立がんセンター中央病院胃外科の片井 均先生から内視鏡技術認定医の肩書きを有し、がんセンターでの研修経験もある藤原久貴先生を是非がんセンターに貸してほしいとの強い希望があり、がんセンターでの活躍と一層の躍進を期待し7月より派遣しております。新年度をすでに迎えていますが抜群の評価で派遣の延長が認められ引き続き築地で活躍中です。医局では千葉・野田、4月から野田に変わり西成と一緒にこれまでの診療体制の維持と更なる発展を目指し従来から力を入れて取り組んでいる①腹腔鏡下手術の適応拡大（進行がんへの応用、完全鏡視下手術の導入）②化学療法による高度進行胃がんに対する集学的治療に加え、ダビンチサージカルシステムを用いたロボット支援胃切除術の導入、高度進行再発胃癌に対する多施設共同研究や治験への積極的症例登録を推進しております。

平成26年のニュース

- 2月 ▶ 9th韓日中腹腔鏡下胃切除セミナー（済州島）に参加発表（肥田）
- 4月 ▶ DDW（Chicago）に参加、DKTフォーラムの結果を発表（肥田）
- 12月 ▶ 韓国癌学会にて講演（肥田）
韓国がんセンターにて講演、手術（肥田）

平成26年 診療・研究状況報告

●手術数：123例

《内訳》

胃癌 開腹切除 31例
腹腔鏡下切除 60例（ロボット支援下切除2例）
その他（非切除バイパス、GIST等） 32例

●平成26年研究報告

- ・JCOG0110「上部進行胃癌に対する胃全摘術における脾合併切除の意義に関するランダム化比較試験」症例登録終了、解析中。
- ・JCOG0501「根治切除可能な大型3型・4型胃癌に対する術前TS-1+CDDP併用療法による第Ⅲ相試験」症例登録終了、解析中。
- ・JCOG0705「治療不能進行胃癌に対する胃切除術の意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験」症例登録終了、解析中。
- ・JCOG0912「臨床病期Ⅰ期胃癌に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の開腹幽門側胃切除術に対する非劣性を検証するランダム化比較試験」症例登録終了、解析中。
- ・JCOG1001「深達度SS/SEの切除可能胃癌に対する網膜切除の意義に関するランダム化比較第三相試験」症例登録終了、解析中。
- ・JCOG1002「高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前Docetaxel+CDDP+S-1の第Ⅱ相試験」症例登録終了、解析中。
- ・JCOG1013「切除不能進行・再発胃癌を対象としたS-1/シスプラチン併用（CS）療法とドセタキセル/シスプラチン/S-1併用療法（DCS）療法のランダム化比較試験」症例登録中。
- ・JCOG1104「病理学的StageⅡ胃癌に対するS-1術後補助化学療法の期間短縮の意義を検討するランダム化比較試験」症例登録中。
- ・JCOG1108「高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対する5-FU/LV療法vs.FLTAX療法のランダム化比較試験」症例登録中→登録一時中止中。
- ・JFMC42-1002「胃全摘術施行後の消化管機能異常に対する大建中湯の臨床効果（プラセボを対照とした多施設二重盲検群間比較試験）症例登録、解析終了、DDW2014にて肥田発表。
- ・JFMC43-1003「切除不能進行・再発胃癌症例に対するTS-1の連日投与法および隔日投与法のランダム化第Ⅱ相試験」症例登録終了、解析中。
- ・JLSSG0901「進行胃癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術の安全性と根治性に関するランダム化Ⅱ/Ⅲ相比較試験」Ⅱ相終了、Ⅲ相症例登録中。
- ・STAR ReGISTry「ハイリスク消化管間質腫瘍（GIST）に対する完全切除後の治療に関する研究」症例登録中。
- ・大型胃GISTに対する術前イマチニブ療法の第Ⅱ相試験 登録終了解析中。
- 今後の研究課題
 - ・併存疾患を有する胃癌症例に対する化学療法の確率
 - ・腹腔鏡下胃癌手術の推進、技術認定医育成など
 - ・癌性腹水に対する抗癌剤感受性試験を指標とした化学療法
 - ・胃切除再建法別の糖代謝に対する影響に関する検討
 - ・胃癌症例における骨代謝の検討

乳腺グループ

STAFF：柏葉匡寛・小松英明・石田和茂

専門外来

火・水曜

8時30分-17時

(新患は火曜・水曜午後1時から予約なしで承ります)

ブレストケア外来

火曜PM

(新患は原則乳腺外来あるいは形成外科外来での診察・検査を終了後受診)

岩手県、北東北の乳癌診療をリードすべく、整容性が良く再発率の低い温存術、センチネルリンパ節生検、同時・2期再建といった精度の高い外科手術とQOLを維持し副作用管理を徹底した周術期薬物療法、さらに最新の進行再発乳癌治療からなる標準薬物療法の実践を基本として地域への貢献に努めています。乳腺チーム（専門医・認定医・研修医師、薬剤師、乳がん看護認定看護師含む看護師）での診療を基本として、看護師、薬剤師によるきめ細やかな患者サポートにより高度化された乳癌治療を分かり易く患者さんにお伝えし、満足度も高い治療環境の提供をモットーとしています。さらに次世代のエビデンスの創出に向け医師主導試験、開発試験では東北最大数を実践、東北、岩手でもいち早く最新治療を受けられること、患者さんが機会を逸することの無いよう心掛けています。また県内外からのセカンドオピニオン、薬物療法の相談、再発治療からの紹介も承っています。これら診断、手術、薬物療法、研究全般に真摯に向き合うことを通じて次世代の乳腺外科医の育成を推進しています。

平成26年のニュース

- 1月 ▶ 岩手乳腺疾患研究会開催
- 2月 ▶ 順天堂大学乳腺外科 見学（柏葉）
Kyoto Breast Cancer Consensus Conferenceパネリスト（柏葉）
- 3月 ▶ 第11回日本乳癌学会東北地方会@仙台
第3回岩手Breast Careカンファレンス講演（小松）
- 4月 ▶ 乳腺診断フォーラム開催
OOTR@クアラレンプール招聘（柏葉）
- 5月 ▶ ASCO2014参加（柏葉・小松）
- 7月 ▶ 第22回乳癌学会総会@大阪で全員発表（柏葉・小松・石田）
ブレストケア外来開設
- 8月 ▶ 癌治療学会@横浜で全員発表（柏葉・小松・石田）
- 10月 ▶ 第27回日本内視鏡外科学会@盛岡 シンポジウム座長（柏葉）
岩手ピンクリボンの会 講演会（柏葉）
- 11月 ▶ 乳腺診断フォーラム開催
韓国AKCSSに招聘（柏葉）
- 12月 ▶ San Antonio Breast Cancer Symposium参加（石田）

平成26年 診療・研究状況報告

●入院数：257例

●手術数：167例

《内訳》

疾患	術式	症例数
乳癌	乳房部分切除	91例（温存率54.4%）
	胸筋温存乳房切除	62例
	乳腺全摘術+組織拡張期留置	14例（再建率8.4%）
計		167例

《年次手術数推移》

	2012年	2013年	2014年
原発乳癌	166件	175件	167件

●平成26年研究報告

《臨床研究》

- ・ Triple negative 乳癌の免疫染色による臨床的サブタイプの検討
- ・ 再発乳がんにおける適切な併用療法の探索・同定
- ・ 乳癌原発および生検組織でのKi67-LIの変化と臨床的有用性の検討
- ・ 術前化学療法後センチネルリンパ節生検の安全性の検討
- ・ センチネルリンパ節生検時転移陽性症例における郭清省略可能症例の予測因子の検討
- ・ マウス脳転移好発細胞株からの転移関連遺伝子の同定
- ・ 乳癌の原発巣におけるEMT・Stemnessの関連

- ・Triple negative 乳癌におけるClaudin発現と臨床病理学的因子の相関の検討
《医師主導研究》
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「転移・再発乳がんに対するアンスラサイクリン系薬剤とティーエスワンのランダム化比較試験（SELECT BC-CONFIRM）」
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験（NSAS-BC06）」
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法における化学療法とトラスツズマブ併用に関するランダム化比較試験（NSAS-BC07）」
- ・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）-C05「HER2陰性の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたベバシズマブとパクリタキセルの併用療法の有用性を検討する観察研究」
- ・医師主導試験「進行・再発乳がん患者のがん疼痛治療に対する塩酸オキシコドンの有効性・安全性に関する検討」
- ・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）-M04「ホルモン陽性HER2陰性進行再発乳癌に対する、ホルモン療法による維持療法を利用したベバシズマブ＋パクリタキセル療法の治療最適化研究－多施設共同無作為化比較第Ⅱ相臨床試験－」
- ・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）-18Gem「進行再発乳癌におけるエリ プリンとゲムシタビンの併用療法における臨床第Ⅰ相試験」
《開発治験》
- ・前治療なしのHER2陽性転移性乳癌患者におけるPertuzumab＋Trastuzumab＋DocetaxelとPlacebo＋Trastuzumab＋Docetaxelの有効性及び安全性を評価する国際第Ⅲ相無作為化二重盲検プラセボ対照比較試験（CLEOPATRA試験）
- ・ErbB-2陽性局所再発性又は転移性乳癌患者を対象としたNeratinib（HKI-272）とパクリタキセルの併用投与及びトラスツズマブとパクリタキセルの併用投与を第一選択療法として比較する国際第Ⅲ相無作為化非盲検2群対照試験
- ・転移性乳癌患者を対象としたABI-007（アブラキサ）毎週投与とドセタキセル3週ごと投与法との比較第Ⅱ相試験
- ・「RO5304020（T-DM1）によるHER2陽性の局所進行・再発又は転移性乳癌患者を対象とした第Ⅱ相臨床試験」
- ・「HER2陽性の進行性／再発性の局所進行乳癌又は転移性乳癌（MBC）の一次治療としてのT-DM1とベルツズマブの併用又はT-DM1とベルツズマブのプラセボ（ベルツズマブに対し盲検）の併用の有効性及び安全性をトラスツズマブとタキサン系薬剤の併用と比較する国際多施設共同第Ⅲ相ランダム化3群比較試験」（MARIANNE試験）
- ・「手術可能なHER2陽性原発性乳癌における術後療法

としての化学療法＋トラスツズマブ＋プラセボと化学療法＋トラスツズマブ＋ベルツズマブのランダム化、多施設共同、二重盲検、プラセボ対照での比較試験第Ⅲ相、ランダム化、多施設共同、二重盲検、プラセボ対照試験（APHINITY試験、BIG4-11/BO25126/TOC4939g）」

- ・「ホルモン受容体陽性HER2陰性進行再発閉経後乳癌に対するレトロゾール＋エベロリムス併用オープンレベル単アーム第Ⅱ相多施設共同試験（Bolero-4試験）」
- ・進行癌に対する全身抗癌療法歴のないER陽性HER2陰性の閉経後進行乳癌女性患者を対象とし、PD-0332991（経口CDK4/6阻害剤）＋レトロゾール併用とプラセボ＋レトロゾール併用を比較する、無作為化、多施設共同、二重盲検、第3相試験（Protocol No.: A5481008）
- ・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）-20（医師主導治験）「HER2陽性乳癌におけるベルツズマブとトラスツズマブエムタンシンを用いた術前療法の検討（ランダム化第Ⅱ相試験）」

●今後の研究課題

- ・Triple-negative（ER/PgR/HER2陰性）乳癌のサブタイピングの臨床的意味の検証→TMAによるCluster化は終了、他の臨床病理学的因子との相関含め、術前化学療法の効果と相関があるか検証中（柏葉）
- ・再発乳がんにおける適切な併用療法の探索・同定→Capecitabine/CPT-11併用療法PhaseⅠ終了、OncologyにAccept
- ・乳癌原発および生検組織でのKi67-LIの変化と臨床的有用性の検討→乳癌学会、癌治療学会にて報告済み（小松論文作成中）
- ・術前化学療法後センチネルリンパ節生検の安全性の検討→外科学会で報告済み（小松論文作成中）
- ・センチネルリンパ節生検時転移陽性症例における郭清省略可能症例の予測因子の検討→外科学会で報告済み（小松論文作成中）
- ・マウス脳転移好発細胞株からの転移関連遺伝子の同定→乳癌学会、外科学会で報告済み（石田論文化中）
- ・乳癌の転移と薬剤感受性におけるEMTの関与の検討→学位論文として投稿中（川岸論文投稿準備）
- ・Triple negative 乳癌におけるClaudin発現と臨床病理学的因子の相関の検討→学位論文として岩手医誌にAccept（松井）
- ・看護師による術後化学療法決定の支援、治療中の生活支援研究の指導・支援→弾性ストッキングによる下肢末梢神経障害の予防を乳癌学会にて報告済み（熊谷看護師論文化中）
- ・薬剤師による術後化学療法における嘔気・嘔吐、末梢神経障害の支持療法開発の指導・支援（佐藤薬剤師論文化中）
- ・癌化学療法専門薬剤師、乳がん看護認定看護師の育成補助→新病院へのメンバー教育強化として三浦・熊谷看護師継続課題
- ・チーム医療の有用性の科学的評価→医師、薬剤師、看護師のレベル別到達目標のラダー化による可視化の試み

内視鏡外科グループ

STAFF：佐々木 章・馬場誠朗・梅邑 晃（長期出張中）

専門外来

水曜
8時30分-12時

臨床ではreduced port surgeryの適応拡大、研究では高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術に関する多職種連携の研究が中心となりました。手術件数は2011年とほぼ同じですが、高度肥満を伴う2型糖尿病に対するmetabolic surgeryが増加しています。

平成26年のニュース

- 1 月 ▶ 内視鏡下頸部良性腫瘍切除術を先進医療で開始
- 4 月 ▶ 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を保険診療で開始
- 10月 ▶ 第27回日本内視鏡外科学会総会が盛会に終了

平成26年 診療・研究状況報告

●手術数：内視鏡外科手術 58件（手術日の月曜日は祝日が多く、肝移植で手術枠が制限されるために、盛岡市立病院枠で4例を施行）。

《内訳》

疾患	術式	症例数
胆嚢良性疾病	腹腔鏡下胆嚢摘出術	19
甲状腺良性疾病	内視鏡下甲状腺全摘術	1
	内視鏡下甲状腺葉切除術	4
副腎疾患	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術	6
	多孔式腹腔鏡下副腎摘出術	2
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	15
脾臓疾患	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術	1
胃粘膜下腫瘍	2孔式腹腔鏡下胃局所切除術	2
	LECS	1
食道アカラシア	2孔式腹腔鏡下Heller-Dor法	2
大腿ヘルニア	Kugel法	1
	McVay法＋小腸切除術	1
腸閉塞	開腹下修復術	1
憩室炎	ストーマ造設術	1
悪性リンパ腫	開腹生検	1
計		58

《年次手術数推移》（主要疾患）

疾患	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
胆嚢良性疾病	41	36	25	26	19
甲状腺良性疾病	6	8	12	4	5
脾臓疾患	7	0	5	2	1
副腎疾患	3	6	9	10	8
高度肥満症	2	5	6	12	15
食道良性疾病	4	3	0	4	3

●平成26年研究報告

《教室内》

・いわて医療情報ネットワークを利用した遠隔手術指導
支援：終了

（平成26年度地域医療研究事業）

・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後のGLP-1動態と非アルコール性脂肪性肝疾患に対する効果：終了

（平成25年度圭陵会学術振興会 共同研究助成）

・NASH合併高度肥満症に対する肥満外科手術後のインスリン抵抗性と肝組織学的変化：継続

・肥満・糖尿病に基づく動脈硬化形成における小胞体ストレスの役割：継続

・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における異所性脂肪量の変化：継続

・高度肥満を伴う閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果：継続

《全国規模》

・がん医療エキスパート育成事業：継続

www.cael.jpをごらん下さい。

肝胆膵グループ

STAFF：新田浩幸・高原武志・長谷川 康・片桐弘勝・武田大樹・眞壁健二

専門外来
木曜
8時30分-12時30分
金曜
8時30分-12時30分
14時-16時30分

肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、内視鏡（腹腔鏡・胸腔鏡）手術、化学療法、肝移植など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療は何かを考え診療にあたっております。特に、肝疾患に対する腹腔鏡下手術は本邦で最も症例数の多い施設の一つであり、良好な成績を得ております。日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医や日本内視鏡外科学会の技術認定を取得するため、若手外科医の執刀機会が多いことも特徴の一つです。

肝移植医療は2007年より病院全体の協力のもと積極的に行っており、生体・脳死合わせて50例を超えました。治療成績は良好であり、生体肝移植ドナー手術も可能な限り腹腔鏡（補助）下で行っていることから、患者の満足度も高いものとなっております。2011年9月に脳死肝移植施設として認定され、現在まで4例行いました。

胆道癌や膵癌に対しては術前および術後補助化学療法など、集学的治療により治療成績を向上させるべく取り組んでおります。

平成26年 診療・研究状況報告

●入院数：342例

●手術数：202例

●平成26年の手術症例

《疾患別》

▶悪性：肝細胞癌：63例／転移性肝癌：22例／肝内胆管癌：5例／胆管癌：20例（肝門部6例、肝外14例）／胆嚢癌：4例／乳頭部癌：2例／膵癌（IPMC含む）：36例▶良性：生体肝移植ドナー、肝嚢胞、IPMNなど：37例▶その他：脾腫瘍など：13例

《術式別》

脳死肝移植：3例／生体肝移植：10例／肝切除：99例／PpPD：41例／膵体尾部切除：10例／膵全摘：3例／胆管切除：5例／胆石、胆嚢良性疾患手術：2例／バイパス（胆管、消化管）：4例／脾摘：6例／ラジオ波焼灼療法：4例／肝嚢胞天蓋切除：1例／非切除：4例／その他：10例

《年次推移》

	2010	2011	2012	2013	2014
肝細胞癌	28	27	34	36	63
肝内胆管癌	1	2	5	6	5
転移性肝癌	50	43	47	43	22
胆管癌	21	30	36	19	20
胆嚢癌	10	7	4	9	4
乳頭部癌	2	1	6	3	2
膵癌	15	17	33	31	36
脳死肝移植				1	3
生体肝移植	9	7	7	6	10

●平成26年研究報告

《教室内》

・「腹腔鏡下肝切除の肝門部流入血遮断に対するステロイド投与に関する臨床試験」症例集積中。

・「肝外細胞の肝再生に果たす役割」症例集積中。

・「肝切除手術における画像支援ナビゲーションの有用性に関する検討」症例集積中。

など

《全国規模》

・「ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術の多施設共同試験」

・「初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有用性に関する多施設共同ランダム化並行群間比較試験」

・「膵頭十二指腸切除術後膵液瘻grade Cの危険因子の同定－前向き観察多施設共同研究－」

・「非大腸癌・非内分泌腫瘍由来肝転移の切除成績の全国統計」

下部消化管グループ

STAFF：大塚幸喜・木村聡元・箱崎将規・八重樫瑞典・上嶋 徳
 ストーマ外来（WOCN）：千葉励子・高橋咲子

専門外来
 月曜
 8時30分-15時
 金曜AM
 ＊外来化学療法のみ

1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2014年12月までに1509例となりました。2014年の全大腸癌の約9割が腹腔鏡手術でした。これまで直腸癌の治療的側方リンパ節郭清は開腹手術で行っていましたが、2013年から腹腔鏡の適応としたことが大きな理由と考えます。症例数の増加だけでなく、直腸癌の側方郭清や肛門温存などさらに質の高い手術が行い得ていると確信しております。その背景には、安心して任される木村聡元先生、箱崎将規先生の成長が大きく影響していると思います。

切除不能・再発大腸癌に対しては、全国標準外来化学療法を患者様の立場になってわかりやすく説明し行っており、最期にはご家族にも納得していただける緩和を目指しております。

また、潰瘍性大腸炎やCrohn病などの炎症性腸疾患症例に対しても患者様のQOLを重視した腹腔鏡下手術を積極的に行っております。

ストーマ外来は当院の千葉励子、高橋咲子WOCナース2名でストーマ教育を行っており、精神面からもフォローさせていただいております。

教育面に関しても、若手外科医に対しての腹腔鏡手術の指導も積極的に行っており、合格率29%の難関の中、2014年は2名の内視鏡外科技術認定医合格者（箱崎将規先生、遠藤久仁先生）を輩出しました。また全国からも多数の手術見学者を招いて指導を行っております。

平成26年のニュース

- 4月 ▶箱崎将規先生、遠藤久仁先生（福島県立医科大学から一年の留学）が、日本内視鏡外科学会技術認定医試験合格。
 吉田雅一先生が帰局。
- 12月 ▶大腸癌に対する腹腔鏡手術173例と過去最多。

平成26年 診療・研究状況報告

- 入院数：332例
 - 手術数（全麻）：232例
 ＊そのうち大腸癌手術（切除）は190例
- 《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌（100例）	開腹	10例
	腹腔鏡	90例
直腸癌（92例）	開腹前方切除	5例
	腹腔鏡下前方切除	51例
	腹腔鏡下ISR	2例
	開腹マイルス手術	3例
	腹腔鏡下マイルス手術	16例
	開腹ハルトマン手術	1例
	腹腔鏡下ハルトマン手術	10例
	経肛門の腫瘍切除	4例
非切除・他科・直腸癌術後	人工肛門造設 / 閉鎖	11例 / 14例

FAP	腹腔鏡下大腸全摘	1例
Crohn病	腹腔鏡下手術 / 開腹	5例 / 2例
潰瘍性大腸炎	腹腔鏡下大腸全摘 / 開腹	6例 / 1例
大腸癌再発	腫瘍切除・リンパ節摘出	4例
イレウス・憩室炎・腹膜炎		7例
*他科応援手術	（婦人科・泌尿器科）	13例

《大腸癌の年次手術数推移》

	2012年	2013年	2014年
結腸癌全手術数	133	111	100
直腸癌全手術数	71	79	92
計	204	190	192
腹腔鏡下大腸癌手術	166	168	173

●平成26年研究報告

《教室内》

- ・「組織学的ステージⅢa、Ⅲb大腸癌症例に対する術後補助療法としてのUFT/LV療法とUFT/LV+PSK療法の無作為化第Ⅲ相比較臨床試験」ICOG-CC01：岩手医科大学関連施設との共同臨床試験：症例登録終了し追跡中（2015年3月時点）。
- ・「腹腔鏡下大腸癌手術における臍縦切開に関する検討」：300例集積中（2015年3月時点）
- ・「腹腔鏡下大腸癌周術期における腸管処置に関する検討」：110例集積中（2015年3月時点）

《全国多施設共同研究》

▶JCOG

- ・1107試験「治癒切除不能進行大腸癌の原発巣切除にお

ける腹腔鏡下手術の有用性に関するランダム化比較第Ⅲ相試験（ENCORE Trial）」：症例集積中

▶腹腔鏡下大腸切除研究会

- ・「肛門近傍の下部直腸癌に対する腹腔鏡下手術の前向き第Ⅱ相試験-ULTIMATE TRIAL-」症例集積中

●今後の研究課題

▶臨床面

- ・内視鏡外科学会技術認定医の育成（2014年大腸分野合格者：岩手医科大学外科 箱崎将規、福島県立医大肝胆膵・移植外科 遠藤久仁）
- ・腹腔鏡下大腸手術の県内外への啓蒙と技術指導

▶研究面

- ・ICOG CCの解析、論文化
- ・学会発表の論文化

リサーチグループ《分子治療研究室》

STAFF：西塚 哲・岩谷 岳・久米浩平・石田 馨・佐藤 慧・大森幸美・伊藤千絵
天野 総・杉立彰夫

専門外来

外来なしの
24時間営業

研究室が現在の1号館4階に移ってから、むき出しのコンクリートの壁にポスターを貼り続けています。それに紛れて誰かが日常の写真やプライベート写真を貼っています。考えてみたら、他科の先生や業者さんも忘年会で女装した写真や実験中の居眠り写真を自由に閲覧できる状態でした。もう3年です。剥がすのはやめて遺産登録を目指します。

平成26年のニュース

- 4月 ▶伊藤千絵がメンバーに（岩手県立宮古病院から）。
西塚、岩谷、久米、石田、アメリカ癌学会で発表（サンディエゴ）。
- 5月 ▶佐藤慧、「圭陵会研究助成」採択。
- 6月 ▶4年生ラボ配属トレーニング開始。参加3名。
- 10月 ▶RPPA 2013 Global Workshop開催（パリ、逆相タンパクアレイの国際ワークショップ、西塚が初代プレジデントに選出）。

平成26年 診療・研究状況報告

●診療報告

抗がん剤感受性試験：1例 医学部4年生受入数：3名

●平成26年研究報告

《教室内》

- ・「薬剤耐性細胞のstochasticな出現ルールに関する研究」：久米浩平
- ・「新規タンパクアレイを用いた薬剤耐性細胞の分子生物学的プロファイル」：久米浩平
- ・「血中遊離腫瘍由来DNA定量による大腸癌体内腫瘍量モニタリング」：佐藤慧
- ・「進行胃癌におけるPIK3CAの変異とPI3Kリン酸化に

おける役割」：伊藤千絵

《共同研究》

- ・「傷害肝再生に関わる骨髄間葉系多能性幹細胞に関する研究」東北大学との共同研究：片桐弘勝
- ・「5胃癌術後補助化学療法の異種同所移植モデル確立と分子標的の同定」民間企業との共同研究：石田馨
- ・「胃癌根治術後補助化学療法効果予測バイオマーカーに関する後ろ向き臨床研究（NJバイオマーカー研究）」岩手医科大学関連施設、および市立札幌病院、山形県立中央病院との共同研究。症例集積完了：西塚哲

岩手医科大学外科分子治療研究室では大きく分けて以下の3つの根本的な疑問に答えるべく研究を続けています。

1. どうして癌は再発するのか

- ・ヒト癌細胞株を用いたバイオマーカースクリーニングから、胃癌根治術後の補助化学療法の効果予測マーカーとしてNF-κB/JNKを同定しました。多くのご施設からのご協力を得て、現在まで658例の症例集積が終了しました。免疫染色および遺伝子解析も終盤に差し掛かり、臨床データとの関連解析を本格化します。

- ・基礎的研究では、癌細胞集団の中にある薬剤寛容性細胞（薬剤存在下で増殖可能な集団）の解析から、再発に関与すると思われる細胞集団の増殖を特異的に抑制する化合物を同定しました。マウス癌性腹膜炎モデルでは生存期間延長が見られており、現在その標的分子の解析を進めています。
- ・ヒト胃癌の組織発生を模倣するモデルとして、胃粘膜下組織へのヒト胃癌細胞異種同所移植モデルを開発しました。わずか数ミリの層に細胞を注入する難易度の高い技術ですが、抗癌剤の投与モデルとして極めて有用です。このモデルを用いて従来薬に耐性となった胃

癌が感受性を示す分子標的薬を同定しました。

2. どうして傷は治るのか

東北大学出澤真理教授との共同で、骨髄由来の多能性幹細胞として同定されたMuse細胞の肝切除マウスにおける肝組織修復および肝再生への貢献について研究を進めています。当科での生体肝移植症例のgenotypingからも肝外細胞による肝再生が示唆されており、その機序解明に向かう研究です。

3. 見えない癌は見つけられないのか

近年の癌ゲノム解析から、診断されうる癌の大きさに到達するには数年から数十年かかることがわかってきま

した。これは視覚的な診断が可能になる前から癌が存在していたことを示唆します。これらの“超早期癌”を発見するには、全身を循環する血液から癌の存在を示唆する証拠をつかむ必要があります。我々は次世代シーケンサーを用いた末梢血DNAにおける癌特異的な変異を検出し、“超早期癌”診断の可能性を検証します。現在まで、一つ一つの癌で異なっている遺伝子変異を末梢血DNAで解析しバイオマーカーとしての有用性を確認しました。定量性については、超早期癌には更なる感度増加が必要なことがわかってきましたが、現状の技術でもステージによっては個人の診断に特化した新しい腫瘍マーカーになる可能性を示しました。

関連ウェブサイト：www.nishizukalab.org

小児外科グループ

STAFF：水野 大・伊勢一哉・小林めぐみ・(有末篤弘・佐々木秀策・吉田宗平)

専門外来

火曜・金曜
10時-12時

一般小児外科外来：前年同様、原則、火曜日と金曜日の10時から12時を一般小児外科外来診察時間としておりますが、他の曜日・時間も手術、検査をはじめとする他業務との兼ね合いをみながら可能な限り対応させていただいております。

小児ストーマ・スキンケア外来：第4火曜日14時から16時。WOCナースと協力しながら、人工肛門を有する患者様や、直腸肛門奇形術後、神経因性排便障害等の患者様にスキンケア、洗腸による排便コントロール等の指導をしております。

また、原則として30分刻みの枠に各5人の予約設定とし、患者様の待ち時間短縮を図っております。

平成26年のニュース

- 4月 ▶有末篤弘、外科研修のため八戸赤十字病院へ。
佐々木秀策、外科研修のため県立二戸病院へ。
吉田宗平、県立久慈病院での2年間の卒後初期臨床研修、1年間の外科研修を終え教室へ帰室。
小林めぐみ、日本小児外科学会専門医取得。
- 7月 ▶産科と共同し本県初のEXIT（臍帯非切断下胎児気管切開術）に成功。
- 11月 ▶佐々木秀策、県立二戸病院での外科研修から帰室、吉田宗平、二戸病院へ。

平成26年 診療・研究状況報告

●入院数：275人

●全麻手術件数：270件

《内訳（重複あり）》

▶新生児（食道閉鎖、腹壁破裂、臍腸管遺残、ヒルシュスプルング病、先天性横隔膜ヘルニア、壊死性腸炎、腸閉鎖、胎便性腹膜炎、CCAMなど）20例▶悪性腫瘍（神経芽腫、肝芽腫、奇形腫、甲状腺がん、悪性リンパ腫など）6例（含む生検）▶上部消化管（胃食道逆流症、肥厚性幽門狭窄症など）17例▶下部消化管（イレウス、直腸肛門奇形など）28例▶肝胆膵脾（肝芽腫、胆道拡張症、胆道閉鎖症、球状赤血球症など）12例▶急性虫垂炎20例▶鼠径ヘルニア類縁疾患（停留精巣含む）66例▶泌尿器系（水腎症、膀胱尿管逆流症、腎不全など）20例▶呼吸器系（漏斗胸、CCAM、気管異物、気管切開など）20例

●過去3年間の手術数

平成24年：228件／平成25年：231件／平成26年 270件
その他、関連病院・秋田大学で69件の手術指導

●平成26年研究報告

《教室内》

・胃瘻を利用した新たな低侵襲胃噴門形成術の開発 動物実験継続中

・大動物を用いた小児腹腔鏡下手術教育

《全国規模》

・JNBSG 日本神経芽腫芽腫研究グループ 高リスク神経芽腫臨床試験

・JPLT3 日本小児肝臓スタディグループ

・JWiTS3 日本ウィルス腫瘍スタディグループ

・JCCG 日本小児がん研究グループ

緩和ケアチーム

STAFF：木村祐輔・三浦一穂（乳がん看護認定看護師）・

菅野綾子（がん性疼痛看護認定看護師）・萬徳孝子（緩和ケア認定看護師）

専門外来

月曜日～木曜日
の午前中

当院では、2007年6月より岩手医大緩和ケアチームが発足し、専門的緩和ケアの提供を開始しました。緩和ケアチームは、主にがんの治療のために当院に入院中の患者およびその家族を対象として、疾患の時期によらず、疼痛をはじめとする様々な身体的苦痛症状の緩和や、疾患や治療に対する不安への対応、社会経済的困難への支援、および社会福祉に関する情報提供、あるいは患者・家族が希望する療養場所で過ごせるよう、地域連携の強化等、全人的苦痛への対応を行っております。これらの支援を可能とするために、当チームには、医師、看護師、薬剤師を始め、多くの専門知識を有する多職種が組織横断的に参加しています。緩和ケアの主な提供体制は、緩和ケアチームに加え、外来通院中の患者・家族に対しては、緩和ケア外来で対応しています。また、2014年1月には、緩和医療学科が開設されました。現在、全県における緩和ケア提供体制の均てん化を推進するため、岩手県内9カ所の地域がん診療連携拠点病院と協働して、医師をはじめとする多職種参加型の緩和ケア研修会（PEACE project）の開催、および岩手県緩和ケアテレビカンファレンスの実施を主導しています。特に、テレビカンファレンスは、各拠点病院のスタッフのみならず、近隣の診療所、訪問看護ステーションなど多くの医療機関からもご参加いただき、これまでの7年間に60回を超えて開催し、のべ8,000名を超える毎回約200名の参加者を得てきました。今後も、岩手県の緩和ケアの普及発展に尽力してまいります。

■診療（活動）体制

1）緩和ケア外来

当院通院中の患者及びその家族、あるいは他院通院中の方も対象に緩和ケアの提供を行っています。身体的苦痛への対応をはじめ、がん告知後の精神的苦痛などにも積極的に関わります。平日の（月）～（木）の午前中に開設しており、予約制を基本としますが、緊急時には随時対応いたしますので、お気軽にご連絡ください。

2）緩和ケアチーム

当院入院中の患者及び家族を対象に緩和ケアの提供を行っています。サポート中の患者さんには、緩和ケア医、専従看護師が毎日回診します。チーム全体のカンファレンスは、毎週火曜日16時から、緩和ケア外来で行っており、医療系学生を含むすべての医療者に開放しています。

チームコアメンバー

- ・医師（緩和ケア医、歯科医、精神科医、放射線科医、麻酔科医）・・・8名
- ・看護師（がん性疼痛看護認定看護師、緩和ケア認定看護師）・・・2名

- ・薬剤師（がん専門薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師）・・・2名
- ・臨床心理士・・・2名
- ・言語聴覚士・・・1名
- ・理学療法士・・・1名
- ・作業療法士・・・1名
- ・管理栄養士・・・1名
- ・歯科衛生士・・・1名
- ・MSW・・・1名

リンクナース 20名

3）岩手県緩和ケアテレビカンファレンス

本会を通じて、岩手県内の緩和ケアの知識・技術の共有、顔の見える連携作りを目指しています。

循環器センター 8階講義室にて、毎月第3月曜19時～20時に開催しておりますので、ご興味のある方はご連絡ください。

■診療（活動）実績

平成26年度は、緩和ケアチームへの依頼が338人（前年比118%増）でした。依頼を頂く診療科も増え、非がん症例の紹介も多く頂きました。依頼内容では、例年通り、がん性疼痛、およびがん性疼痛以外の身体症状に対する症状緩和に対する支援依頼が多く寄せられ、麻酔科、放射線科、歯科をはじめ、薬剤科、栄養科、リハビリテーション科など、多くの領域との緊密な連携により、専門的緩和ケアの提供を行いました。また、療養場所、療養方法についての情報提供および地域連携に関する依頼が全体の約半数を占めており、対応患者の転帰は、自宅退院患者が132名（39%）、死亡退院は72件（21%）、転院は99件（29.3%）であり、そのうち緩和ケア病棟への転院は47件（14%）でした。比較的早期からの紹介が増えたことにより、自宅退院への連携割合が増加したものと考えております。また、緩和ケア専門外来の常設によって、外来通院患者への対応はもちろん、入院患者・家族に対するサポート依頼に対しても、プライバシーを確保した安全な場所での対応が可能となっております。

連絡先 木村祐輔 E-mail: ykimura@iwate-med.ac.jp

●平成26年研究報告

《教室内》

- ・岩手県におけるがん患者の在宅緩和医療に関する研究
－在宅移行および在宅療養の関連要因－

《全国規模》

- ・平成23年度厚生労働省科学研究費補助金がん臨床研究事業「緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究」

高度救命救急センター

専門外来

24時間体制

STAFF：小鹿雅博・石田 馨・佐藤寿穂・吉田宗平

高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話(019-651-5111)から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

平成26年 診療・研究状況報告

●手術数：75例

内因性疾患（手術数）

胃十二指腸潰瘍穿孔 10例

イレウス 12例

虫垂炎 13例

大腸穿孔 13例

急性虚血性腸疾患 5例

嵌頓ヘルニア 3例

外傷（手術数）

肝損傷 1例

腸間膜・腸管損傷（事後・自傷） 8例

その他（気切・ドレナージなど） 10例

●平成26年研究報告

《教室内》

- ・術後敗血症に対する人工臓臓を用いた血糖管理(継続)
- ・LPS刺激によるendotoxin中和能の検討
- ・侵襲、敗血症に対する生体反応の究明。とくにサイトカインと各種細胞膜上レセプター発現の変動と臓器障害について。
(S100A12,HMGB1,sRAGE,AGE,MCP1の特異的変動)
- ・消化管穿孔による腹水培養と感染マーカー及び重症度の整合性について

岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

STAFF：飯島 信

専門外来

午前外来

第2・4水曜 小松英明医師

毎週木曜 医局応援医師

月曜・火曜午後 手術

当院では全科においての常勤医の減少などの影響から、外来、入院数の減少が顕著であり、それに伴い手術症例数が減っているのが現状です。それでも近隣の開業医の先生方にお世話になり、症例を当科へ紹介していただき、感謝しております。また北上済生会病院の細井先生には手術、小松先生には外来のお手伝いをいただき、教室の先生方にも手術応援や専門外来への紹介や逆紹介で大変お世話になっております。

今後とも御指導、御鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

平成26年のニュース

- 3月 ▶ 高橋医師退任。
- 4月 ▶ 飯島医師着任。
- 5月 ▶ 新田先生、片桐先生、武田先生に腹腔鏡下肝左葉切除+S8S7部分切除術を執刀頂く。

平成26年 診療・研究状況報告

●手術数：57例

《内訳、年次手術数推移》

	2012	2013	2014
胃癌	9	9	2
開腹胃切除術	5	4	1
腹腔鏡下胃切除術	4	5	1
結腸癌	11	10	8
開腹切除術	2	0	1
腹腔鏡下手術	9	10	7
直腸癌	7	3	5
開腹切除術	4	2	0
腹腔鏡下手術	3	1	5
胆石・胆嚢炎	14	6	7
開腹胆嚢摘出術	1	0	0
腹腔鏡下胆嚢摘出術	13	6	7
胆嚢癌	1	0	0
胆摘＋リンパ節郭清	1	0	0
転移性肝癌	1	0	1
腹腔鏡下外側区域切除	1	0	0
腹腔鏡下肝左葉切除	0	0	1
イレウス	4	3	0
開腹切除術	1	2	0
腹腔鏡下手術	3	1	0
急性虫垂炎	3	2	0
鼠径ヘルニア	30	22	26
鼠径法(Kugel, D-Kugel)	23	5	0
腹腔鏡下手術(TAPP)	7	17	26

乳癌	0	2	0
胸筋温存乳房切除	0	1	0
乳房部分切除	0	1	0
乳腺線維腺腫 摘出術	0	0	1
結節性甲状腺腺腫 核出術	0	0	1
直腸悪性リンパ腫 経肛門的切除術	0	0	1
毛嚢洞 根治術	0	0	2
腹壁癒痕ヘルニア 腹腔鏡下手術	3	3	0
胃瘻	2	2	1
腸瘻	4	0	0
痔核 根治術	1	0	0
CVポート埋め込み術	11	2	1
その他局麻手術	13	2	1
計	115	66	57

入院患者分類

疾 患		例 数
顔面・頸部		1
甲状腺・上皮小体	良性	3
	悪性	1
乳 腺	良性	3
	悪性	254
食 道	良性	5
	悪性	182
胃・十二指腸	良性	16
	悪性	242
大腸・肛門	良性	12
	悪性	254
肝・胆・膵・脾	良性	93
	悪性	256
イレウス		31
虫垂炎		15
ヘルニア・腹壁・腹膜		18
副 腎		6
病的肥満		88
その他		27
入院者合計		1,507

関連病院手術件数

病 院	全身麻酔件数
函 館 五 稜 郭 病 院	1,089
盛 岡 赤 十 字 病 院	648
盛 岡 市 立 病 院	517
八 戸 赤 十 字 病 院	437
山 本 組 合 病 院	432
県 立 釜 石 病 院	367
県 立 宮 古 病 院	327
県 立 久 慈 病 院	307
県 立 二 戸 病 院	280
か づ の 厚 生 病 院	165
県 立 千 厩 病 院	125
北 上 済 生 会 病 院	107
県 立 江 刺 病 院	55
花 巻 温 泉 病 院	57
盛 岡 友 愛 病 院	636

コンセンサスミーティング報告

高原 武志

2014年10月4日から6日まで、腹腔鏡肝切除に関する第2回国際コンセンサス会議が、第27回日本内視鏡外科学会総会と共開催という形式で盛岡にて開催されました。2008年11月に米国Kentucky州のLouisvilleで第1回国際コンセンサス会議が開催され、腹腔鏡下肝切除の世界的な普及に重要な役割を果たし、日本でも腹腔鏡下肝切除の手術術式が保険収載されるようになりました。今回の第2回国際コンセンサス会議では、腹腔鏡下肝切除という手術技量が要求され、対象疾患数が少なく大規模なRCTの組みにくい手術術式に対して、どのような手法でその手術術式を確立していくかが、メインテーマでありました。18カ国から、34人のExpert panelists

と9人のJury membersの43人の高名な肝臓外科医を招聘し、Zurich-Danish consensus modelという形式をとって、活気あふれる会議が開催されました。クリニカル・クエスチョン（CQ）を17項目まであらかじめ準備し、それぞれのCQに対してこれまで報告されている文献的考察から、最新の腹腔鏡下肝切除の手術手技topicsまで、世界中の腹腔鏡下肝切除のExpertsが一つの会議室で、活発に議論されたことは、これ以上のない成果であったと今改めて感じています。

このような本会議を若林剛前教授のリーダーシップのもと、岩手医科大学外科学教室の教室員がお手伝いできたこと、岩手県盛岡市という都市が腹腔鏡下肝切除の世界的な現状の発信地となったことに感慨深く思うと同時に、本会議に協力して下さった関係各位に感謝いたします。



1. 学術論文

1-1 英文論文

1. Takahashi Y, Iwaya T, Sawada G, Kurashige J, Matsumura T, Uchi R, Ueo H, Takano Y, Eguchi H, Sudo T, Sugimachi K, Yamamoto H, Doki Y, Mori M, Mimori K. Up-regulation of NEK2 by microRNA-128 methylation is associated with poor prognosis in colorectal cancer. **Annals of surgical oncology**, 2014 ; 21(1) : 205-212.
2. Sasaki A, Wakabayashi G, Yonei Y. Current status of bariatric surgery in Japan and effectiveness in obesity and diabetes. **Journal of gastroenterology**, 2014 ; 49(1) : 57-63.
3. Umemura A, Nitta H, Sasaki A, Takahara T, Hasegawa Y, Wakabayashi G. ABO-Incompatible Living Donor Liver Transplantation from Hepatitis B Core Antibody Positive Donor to Hepatitis C Liver Cirrhosis Recipient: A Case Report. **Case reports in transplantation**, 2014. PMID : 25045572.
4. Umemura A, Sasaki A, Nitta H, Otsuka K, Suto T, Wakabayashi G. Effects of changes in adipocyte hormones and visceral adipose tissue and the reduction of obesity-related comorbidities after laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese patients with severe obesity. **Endocrine journal**, 2014 ; 61(4) : 381-391.
5. Shioi Y, Kashiwaba M, Inaba T, Komatsu H, Sugai T, Wakabayashi G. Long-term complete remission of metastatic breast cancer induced by a steroidal aromatase inhibitor after failure of a non-steroidal aromatase inhibitor. **American Journal of Case Reports**, 2014 ; 15 : 85-89.
6. Shioi Y, Inaba T, Komatsu H, Sugai T, Wakabayashi G. Long-term complete remission of metastatic breast cancer, induced by a steroidal aromatase inhibitor after failure of a non-steroidal aromatase inhibitor. **Am J Case Rep**, 2014 ; 15. PMID : 24587856.
7. Endo F, Nishizuka SS, Kume K, Ishida K, Katagiri H, Ishida K, Sato K, Iwaya T, Koeda K, Wakabayashi G. A compensatory role of NF- κ B to p53 in response to 5-FU-based chemotherapy for gastric cancer cell lines. **PloS one**, 2014 ; 9(2). PMID : 24587255.
8. Obuchi T, Shimooki O, Sasaki A, Abe T, Wakabayashi G. Serous cystadenocarcinoma of the mesentery in a man: case report and review of literature. **Gastroenterology report**, 2014 ; 2(4) : 306-310.
9. Umemura A, Nitta H, Sasaki A, Takahara T, Hasegawa Y, Wakabayashi G. Modified FOLFIRINOX for Locally Advanced and Metastatic Pancreatic Cancer Patients Resistant to Gemcitabine and S-1 in Japan: A Single Institutional Experience. **Hepatogastroenterology**, 2014. in press
10. Kashiwaba M, Inaba T, Komatsu H, Ishida K, Kawagishi R, Matsui Y, Uesugi N, Sugai T, Wakabayashi G. A phase I study of capecitabine combined with CPT-11 in metastatic breast cancer pretreated with anthracyclines and taxanes. **Oncology**, 2014 ; 86(4) : 206-211.
11. Akbani R, Becker KF, Carragher N, Goldstein T, de Koning L, Korf U, Liotta LA, Mills GB, Nishizuka SS, Pawlak M, Petricoin EF, Pollard HB, Serrels B, Zhu J. Realizing the promise of reverse phase protein arrays for clinical, translational and basic research : a workshop report. **Molecular & cellular proteomics**, 2014 ; 13(7) : 1625-1643.
12. Kobayashi M, Mizuno M, Matsumoto A, Wakabayashi G. Neonatal Portal Venous Blood Flowmetry by Doppler Ultrasound for Early Diagnosis of Ischemia in Intestinal Tract. **European journal of pediatric surgery**, 2014.
13. Katagiri H, Nishizuka S, Nitta H, Wakabayashi G. Potential involvement of extrahepatic cells in liver regeneration. **Journal of Iwate Medical Association**, 2014 ; 66(2) : 67-74.
14. Sasaki A, Nitta H, Otsuka K, Fujiwara H, Takahara T, Wakabayashi G. Single-port versus multiport laparoscopic resection for gastric gastrointestinal stromal tumors: a case-matched comparison. **Surgery Today**, 2014 ; 44(7) : 1282-1286.
15. Sasaki A, Nitta H, Otsuka K, Obuchi T, Baba S, Koeda K, Mizuno M, Wakabayashi G. Pros and Cons. **Reduced Port Laparoscopic Surgery**, 2014 ; 27-34.
16. Ito N, Iwaya T, Ikeda K, Kimura Y, Akiyama Y, Konosu M, Ishida K, Fujiwara H, Otsuka K, Nitta H, Kashiwaba M, Koeda K, Nishizuka S, Mizuno M, Sasaki A, Wakabayashi G. Hyperglycemia 3 days after esophageal cancer surgery is associated with an increased risk of postoperative infection. **Journal of gastrointestinal surgery : official journal of the Society for Surgery of the Alimentary Tract**, 2014 ; 18(9) : 1547-1556.
17. Sasaki A, Otsuka K, Umemura A, Baba S, Obuchi T, Wakabayashi G. Bariatric surgery and nonalcoholic fatty liver disease: current and potential future treatments. **Frontiers in Endocrinology**, 2014 ; 5(164) : 1-6.
18. Nishinari Y, Kashiwaba M, Umemura A, Komatsu H, Sasaki A, Wakabayashi G. Pulmonary hilar lymph node metastasis of breast cancer induced bronchopleural fistula and superior vena cava syndrome. **The American journal of case reports**, 2014 ; 492-495.

1-2 和文論文

1. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 若林 剛. 胃癌骨転移の臨床的特徴. **日本臨牀**. 2014; 72(1): 177-180.
2. 御供 真吾, 佐瀬 正博, 玉澤 佳之, 加藤 久仁之, 藤澤 健太郎, 若林 剛. 高 CEA 血症精査中に発見された RET 遺伝子変異家族性甲状腺髄様癌の 1 例. **臨床外科**. 2014; 69(1): 102-106.
3. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 若林 剛. 消化器外科と漢方. **Annual Review 消化器 2014**. 2014; 284-291.
4. 小林 めぐみ, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛. 食道アカラシア手術. **小児外科**. 2014; 46(3): 223-225.
5. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 佐々木 章, 若林 剛. 腹腔鏡下肝外側区域切除術. **手術**. 2014; 68(4): 525-536.
6. 佐々木 章, 若林 剛. 高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術. **手術記録の書き方 消化器外科**. 2014; 37(5): 656-659.
7. 小林 めぐみ, 水野 大, 吉田 宗平, 佐々木 秀策, 有末 篤弘, 若林 剛. 開腹手術を要した菓子昆布による小児食餌性イレウスの 2 例. **日本小児外科学会雑誌**. 2014; 50(2): 267-272.
8. 御供 真吾, 須藤 隆之, 石田 馨, 梅邑 晃, 新田 浩幸, 佐々木 章, 若林 剛. 肝硬変合併肝癌に対し二期的に腹腔鏡下脾摘・肝部分切除を施行した 1 例. **日本外科系連合学会誌**. 2014; 39(2): 246-252.
9. 佐々木 章, 若林 剛. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の手術手技と効果. **月刊 糖尿病**. 2014; 6(4): 44-49.
10. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 大淵 徹, 若林 剛. 肥満外科手術のクリニカルパス. **日本臨牀 最新肥満症学**. 2014; 72(4): 525-531.
11. 御供 真吾, 須藤 隆之, 梅邑 晃, 石田 馨, 菅野 公德, 武田 大樹, 藤田 倫寛, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 上杉 憲幸, 菅井 有, 若林 剛. K-Ras 遺伝子野生型切除不能・再発大腸癌に対する Panitumumab の有効性と安全性の検討—一次治療を中心として—. **癌と化学療法**. 2014; 41(6): 731-735.
12. 若林 剛, 大上 正裕, 島津 元秀, 上田 政和, 北島 政樹. 腹腔鏡下肝切除術の現状と将来展望. **肝疾患 2014-2015 Review**. 2014; 56-60.
13. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 梅邑 晃, 若林 剛. 肥満外科手術における合併症対策. **手術**. 2014; 68(9): 1193-1198.
14. 佐々木 章, 梅邑 晃, 肥満外科治療チーム. クリニカルカンファランスから 高度肥満症と血糖コントロール不良で肥満外科手術の適応判断を目的に紹介された 2 型糖尿病の一例. **肥満症治療学展望**. 2014; 4: 8-9.
15. 若林 剛. 内視鏡下肝採取術 (ドナー) —生体肝移植ドナーの負担軽減のために—. **日本移植学会 50 周年記念誌**. 2014; 216-224.
16. 柏葉 匡寛. 個別化治療 HER2 陽性タイプのバイオロジーと治療戦略. **クリニシアン**. 2014; 61: 923-930.
17. 二瓶 哲, 佐藤 淳也, 木村 聡元, 大塚 幸喜, 川口 さち子, 工藤 賢三. Oxaliplatin による末梢神経障害に対する治療アルゴリズムの試み. **Jpn J Cancer Chemother**. 2014; 41(11): 1387-1390.
18. 武田 大樹, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 石橋 正久, 真壁 健二, 安藤 太郎, 佐々木 章, 若林 剛. 腹腔鏡下肝切除中ピットフォールと対策. **外科**. 2014; 76(12): 1431-1436.
19. 遠藤 龍人, 鴻巣 正史, 滝川 康裕. 肝不全と栄養管理. **medicina**. 2014; 51(13): 2346-2349.

2. 著 書

1. 佐々木 章, 若林 剛. 高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術. **手術記録の書き方 消化器外科**. 2014; 37(5): 656-659.

3. 学会発表

3-1 国際学会

Asian American Multispecialty Summit VI, HAWAII, 2014/02/12

1. Wakabayashi G. The Evolution of Laparoscopic Liver Resection. Oral Presentation.

9th Korea-Japan-China Laparoscopic Gastrectomy Joint Seminar, Jeju, Korea, 2014/02/14 ~ 02/15

1. Koeda K, Fujiwara H, Chiba T, Wakabayashi G. Intracorporeal R-Y reconstruction after Totally Laparoscopic Distal Gastrectomy (TLDG) for Obese Patients. Oral Presentation.
2. Koeda K. Emerging technology and research in MIS. Chairman.

IHPBA World Congress 2014 Seoul, Korea, 2014/03/22 ~ 03/27

1. Takahara T. Split hepatectomy for liver cirrhosis by using hanging maneuver. Poster Presentation.
2. Wakabayashi G. Minimally invasive approach for donor hepatectomy from hybrid to pure. Oral Presentation.
3. Takahara T. Effect of neoadjuvant chemotherapy on postoperative liver regeneration following major resection. Poster Presentation.
4. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Itabashi H, Kanno S, Katagiri H, Ishibashi M, Sasaki A, Wakabayashi G. Laparoscopic Liver Resection for Colorectal Liver Metastases: A Single Center Analysis of 101 Consecutive Cases. Oral Presentation.
5. Wakabayashi G. TBD. Oral Presentation.

AACR American Association for Cancer Research 2014, San Diego, CA, US, 2014/04/05 ~ 04/09

1. Ishida K, Nishizuka S, Kume K, Nukatsuka M, Sato K, Endo F, Katagiri H, Kobunai T, Takechi T, Koeda K, Wakabayashi G. Drug-tolerant Gastric Cancer Cell Subpopulation Enriched by 5-Fluorouracil Acquires Malignant Phenotype. Poster Presentation.
2. Kume K, Nishizuka S, Ikeda M, Miura S, Endo F, Katagiri H, Ishida K, Sato K, Maesawa C, Wakabayashi G. Transcriptional and proteomic profiling of drug-tolerant cancer cell subpopulations using colonies that emerge in the presence of anticancer agents. Poster Presentation.
3. Iwaya T. MicroRNA 760 regulates gastric cancer progression by downregulation of histone mRNA expression. Poster Presentation.

ACOS & TJCC, Taipei, 2014/05/02 ~ 05/04

1. Wakabayashi G. Recent Techniques of Laparoscopic Liver Resection. Workshop.

DDW 2014, Chicago, 2014/05/03 ~ 05/06

1. Koeda K, Wakabayashi G, Shimada M, Ishida K, Kaiho T, Kitagawa Y, Sakamoto J, Shiraishi N, Morita S, Kitajima M, Saji S, Kitano S. Daikenchuto (DKT) Helps Improve Postoperative Functional Disorder After Total Gastrectomy in Patients With Gastric Cancer: A Multicenter, Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Trial (JFMC42-1002). Poster Presentation.

49th Congress of the European Society for Surgical Research, Budapest, 2014/05/21 ~ 05/24

1. Sasaki A, Nitta H, Otsuka K, Obuchi T, Baba S, Umemura A, Iwaya T, Nishizuka S, Koeda K, Mizuno M, Wakabayashi G. Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on type 2 diabetes and nonalcoholic fatty liver disease. Poster Presentation.
2. Sasaki A, Nitta H, Otsuka K, Obuchi T, Baba S, Umemura A, Iwaya T, Nishizuka S, Koeda K, Mizuno M, Wakabayashi G. Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on type 2 diabetes and nonalcoholic fatty liver disease. Poster Presentation.

37th The Naito Conference, Niseko, 2014/07/15

1. Kume K, Nishizuka S, Maesawa C, Wakabayashi G. Imaging cytometric analysis of cancer cell subpopulation accumulating p53 in the nucleus in response to etoposide. Poster Presentation.

The 15th International Conference on Systems Biology, Melbourne, 2014/09/15

1. Kume K, Nishizuka S, Wakabayashi G. Emergence of bimodal responses to etoposide in human cancer cell lines. Poster Presentation.

14th World Congress of the International Society for Diseases of Esophagus, Vancouver, Canada, 2014/09/22 ~ 09/24

1. Iwaya T. Downregulation of ST6GALNAC1 on chromosome 17q25.1 was associated with esophageal squamous cell carcinoma development. Poster Presentation.
2. Akiyama Y, Iwaya T, Konosu M, Fujiwara H, Koeda K, Nishizuka S, Nitta H, Otsuka K, Sasaki A, Mizuno M, Kimura Y, Wakabayashi G. Curative thoracoscopic esophagectomy of T4 esophageal cancer, following pathological complete response to docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil: a case report. Oral Presentation.

The 66th annual congress of the Korean Surgical Society, Seoul, Korea, 2014/11/27 ~ 11/29

1. Koeda K. Gastrointestinal endoscopy, education and accreditation in Japan. Symposium.

In 2014 Surgical Grand Round, National Cancer Center, Korea, National Cancer Center, Korea, 2014/12/19

1. Koeda K. Laparoscopic gastrectomy in Iwate Medical University ~ Towards the establishment of Nation's standard. Invited Presentation.

3-2 国内学会

第 196 回日本消化器病学会東北支部例会, 仙台, 2014/02/08

1. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 松尾 鉄平. 超高齢者に対する腹腔鏡下大腸手術の有用性の検討. シンポジウム.

第 11 回日本乳癌学会東北地方会, 仙台, 2014/03/01

1. 小松 英明, 柏葉 匡寛, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 大槻 英恵, 上杉 憲幸, 石田 和之, 菅井 有, 若林 剛. 当科における乳癌手術後の Ki67 Labeling Index についての検討. 一般口演.
2. 柏葉 匡寛, 小松 英明, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 大槻 英恵, 上杉 憲幸, 石田 和之, 菅井 有, 若林 剛. HER2 陽性進行再発乳癌における CNS への転移パターンの解析. 一般口演.
3. 石田 和茂, 柏葉 匡寛, 松井 雄介, 小松 英明, 杉村 好彦, 若林 剛. 脳転移指向性乳癌細胞株を用いた脳転移予測マーカー探索. 一般口演.
4. 工藤 由加里, 原田 昭子, 藤村 麻衣, 中濱 裕佳, 長沼 礼華, 佐々木 美加子, 千葉 香, 三浦 一穂, 柏葉 匡寛. 乳がん患者の術後の痛みによる ADL への影響. 一般口演.
5. 石田 和茂, 柏葉 匡寛, 松井 雄介, 小松 英明, 杉村 好彦, 若林 剛. 脳転移指向性乳癌細胞株を用いた脳転移予測マーカー探索. 一般口演.

第 50 回日本腹部救急医学会総会, 東京, 2014/03/06 ~ 03/07

1. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 食道癌気道瘻における食道ステント挿入術の検討. 一般口演.
 2. 野田 宏伸, 小鹿 雅博, 遠藤 史隆, 佐藤 寿穂, 若林 剛, 井上 義博, 遠藤 重厚. Open Abdominal Management の検討. パネルディスカッション.
 3. 野田 宏伸, 小鹿 雅博, 遠藤 史隆, 佐藤 寿穂, 若林 剛, 井上 義博, 遠藤 重厚. 腹部刺創における手術症例の検討. 一般口演.
 4. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 食道癌気道瘻における食道ステント挿入術の検討. 一般口演.
 5. 吉田 宗平, 高橋 正統, 藤社 勉, 皆川 幸洋, 下沖 収, 阿部 正. 保存的に改善し得た腸管気腫性嚢胞症の治療経験. 一般示説.
 6. 八重樫 瑞典, 川崎 雄一郎, 佐藤 直夫, 坂本 隆. 保存の治療で軽快し得た α グルコシダーゼ阻害薬が原因と考えられる腸間膜嚢腫様気腫症の 1 例. 一般口演.
 7. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 菅野 将史, 石橋 正久, 若林 剛. 肝動脈系に対する IVR 後肝膿瘍形成に関する検討. パネルディスカッション.
 8. 箱崎 将規, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 外館 幸敏, 藤井 仁志, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 大腸癌イレウスの治療戦略とその成績. パネルディスカッション.
 9. 片桐 弘勝, 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 板橋 英教, 菅野 将史, 石橋 正久, 若林 剛. 肝動脈系に対する IVR 後肝膿瘍形成に関する検討. パネルディスカッション.
- * 若林 剛. 学術共催セミナー 1. 司会.
- * 若林 剛. 胆道内視鏡の夜明け—内視鏡治療技術の限界を打ち破る—. 司会.

第 86 回日本胃癌学会総会, 横浜, 2014/03/20 ~ 03/22

1. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 石田 馨, 鴻巣 正史, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 若林 剛. 当科における胃癌に対する腹腔鏡下胃切除の治療成績. 一般示説.

第 114 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2014/04/03 ~ 04/05

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸切除術の新たな手術戦略—THUNDERBEAT と 3D 内視鏡—. ランチョンセミナー.
2. 大淵 徹, 佐々木 章, 新田 浩幸, 馬場 誠朗, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛. 乳房アプローチによる内視鏡下甲状腺全摘術の長期成績. パネルディスカッション.
3. 新田 浩幸, 佐々木 章, 高原 武志, 長谷川 康, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 石橋 正久, 眞壁 健二, 伊藤 直子, 高橋 正浩, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 若林 剛. 安全に行うための腹腔鏡下系統的肝切除の手術手技. パネルディスカッション.
4. 水野 大, 小林 めぐみ, 有末 篤弘, 佐々木 秀策, 佐々木 章, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 若林 剛. 小児外科疾患に対するアプローチ法—医育機関の場合—. パネルディスカッション.
5. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 石橋 勝久, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 肝門部胆管癌における肝動脈再建の手術手技. 一般示説.
6. 小林 めぐみ, 阪本 靖介, 濱野 郁美, 内田 孟, 重田 孝信, 福田 晃也, 金澤 寛之, 水野 大, 若林 剛, 笠原 群生. 小児胆道閉鎖症に対する Acoustic radiation force impulse elastography の有用性. プレナリーセッション.
7. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 鴻巣 正史, 遠藤 史隆, 藤原 久貴, 木村 聡元, 小松 英明, 大淵 徹, 長谷川 康, 板橋 英教, 箱崎 将規, 高原 武志, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 悪性食道狭窄に対する 食道ステント留置 52 例の治療成績. 一般口演.

8. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 積極的アミノ酸投与による食道癌根治術後栄養管理の検討. 一般口演.
9. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 鴻巣 正史, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡宏, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛. 胃癌術後における耐糖能変化に関する検討. 一般示説.
10. 石橋正久, 高原 武志, 新田 浩幸, 眞壁 健二, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 長谷川 康, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 腹腔鏡下肝切除術の有用性完全鏡視下および腹腔鏡補助下肝葉切除術を施行した 2 群間の比較検討より. 一般口演.
11. 片桐 弘勝, 西塚 哲, 串田 良祐, 久米 浩平, 遠藤 史隆, 石田 馨, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 菅野 将史, 石橋 正久, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 出澤 真理, 若林 剛. 損傷肝修復に貢献するヒト骨髄間葉系幹細胞中の特定の細胞, Muse 細胞に関する研究. ワークショップ.
12. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 片桐 弘勝, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛. 肝切除におけるビジュアルモニターの有用性. パネルディスカッション.
13. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 外館 幸敏, 藤井 仁志, 加藤 久仁之, 八重樫 瑞典, 板橋 哲也, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 当科における腹腔鏡下直腸癌手術に対するドレナージ法の検討. パネルディスカッション.
14. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 腹腔鏡下大腸癌手術における臍切開と SSI の検討. 一般口演.
15. 若林 剛. 次世代エネルギーデバイスと 3D 内視鏡の可能性とは—腹腔鏡下肝切除術の Next Stage—. ランチョンセミナー.
16. 馬場 誠朗, 亀山 哲章, 佐々木 章, 富田 真人, 三橋 宏章, 宮田 量平, 今井 俊一, 若林 剛. 単孔式腹腔鏡下腹壁ヘルニア修復術の治療成績. Poster Presentation.
17. 柏葉 匡寛, 小松 英明, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 大槻 花恵, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 上杉 憲幸, 石田 和之, 菅井 有, 若林 剛. HER2-FISH からみた乳癌サブタイプ毎の遺伝子不安定性の検証. 一般口演.
18. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸手術の最前線～最新の術式と Energy Device ～. ランチョンセミナー.
19. 秋山 有史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 藤原 久貴, 肥田 圭介, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下食道切除術の工夫と治療成績. パネルディスカッション.
20. 石田 和茂, 柏葉 匡寛, 小松 英明, 川岸 涼子, 松井 雄介, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 脳転移指向性乳癌細胞株を用いた脳転移予測バイオマーカー探索. パネルディスカッション.
21. 伊藤 直子, 杉立 彰夫, 高橋 正浩, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 長谷川 康, 高原 武志, 新田 浩幸, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 光線力学を利用した新規胆汁細胞診の試み. 一般口演.
22. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 梅邑 晃, 大淵 徹, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛. 高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術: 術後の代謝変化と肥満随伴疾患への効果. 一般口演.
23. 箱崎 将規, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 外館 幸敏, 八重樫 瑞典, 伊藤 千絵, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛. 大腸癌イレウスの治療戦略とその成績. パネルディスカッション.
24. 松尾 鉄平, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 藤井 仁志, 外館 幸敏, 八重樫 瑞典, 伊藤 千絵, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛. 進行横行結腸癌に対する支配血管挟み撃ち法によるリンパ節郭清手技. パネルディスカッション.
25. 石田 和茂, 柏葉 匡寛, 大槻 花恵, 松井 雄介, 川岸 涼子, 小松 英明, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 脳転移指向性乳癌細胞株を用いた脳転移予測マーカー探索. 一般示説
- * 大塚 幸喜. 大腸穿孔・穿通. 司会.
- * 肥田 圭介. 胃手術手技 2. 司会.
- * 若林 剛. 腹腔鏡下肝切除—安全な系統的肝切除の実際と問題点—. 司会.
- * 若林 剛. ランチョンセミナー 5. 司会.
- * 佐々木 章. 大腸内視鏡下 1. 司会.

第 100 回日本消化器病学会総会, 東京, 2014/04/23 ~ 04/26

- * 若林 剛. ワークショップ 4: 消化器癌内視鏡外科手術の最先端. 司会.

第 51 回日本小児外科学会学術集会, 大阪, 2014/05/08 ~ 05/10

1. 水野 大. 重症心身障害者に対する胃瘻増設部位からの単孔式腹腔鏡下噴門形成術. ビデオセッション.
2. 小林 めぐみ, 中村 繁, 日向 泰樹, 川合 志奈, 水野 大, 若林 剛, 前田 貢作, 中井 秀郎. 小児泌尿器科の考える総排泄外反症に対する尿禁制獲得への戦略. 要望演題.

第 87 回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 2014/05/15 ~ 05/17

1. 若林 剛. 気遣いの内視鏡外科手術: 肝・胆・膵. パネルディスカッション.

第 195 回近畿外科学会, 大阪, 2014/05/24

1. 若林 剛. 第 2 回腹腔鏡下肝切除術 国際コンセンサス会議に向けて. 特別講演.

第 12 回日本ヘルニア学会，東京，2014/06/06 ～ 06/07

1. 馬場 誠朗，亀山 哲章，佐々木 章，富田 真人，三橋 宏章，宮田 量平，今井 俊一，若林 剛．単孔式腹腔鏡下手術の挑戦～腹壁瘢痕ヘルニア～．シンポジウム．

第 14 回日本抗加齢医学会総会，大阪，2014/06/06 ～ 06/08

1. 若林 剛．ワークショップ 2 利益相反と臨床研究．ワークショップ．
- * 若林 剛．Meet the Expert 2. 座長．

第 26 回日本肝胆膵外科学会学術集会，和歌山，2014/06/11 ～ 06/13

1. 長谷川 康，新田 浩幸，高原 武志，板橋 英教，菅野 将史，片桐 弘勝，若林 剛．大腸癌肝転移に対する腹腔鏡肝切除の長期成績 - 開腹手術との比較．パネルディスカッション．
2. 塩井 義裕，高原 武志，菅野 将史，片桐 弘勝，板橋 英教，長谷川 康，新田 浩幸，佐々木 章，若林 剛．完全腹腔鏡下肝切除術と腹腔鏡補助下肝切除術における術後急性期疼痛の比較．一般示説．

第 167 回東北外科集談会，仙台，2014/06/14

- * 肥田 圭介．ランチョンセミナー 1 「胃癌手術の郭清・再建」～デバイスの有効利用～．司会．

第 39 回日本外科系連合学会学術集会，東京，2014/06/19 ～ 06/20

1. 梅邑 晃，佐々木 章，須藤 隆之，岩谷 岳，木村 祐輔，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，水野 大，若林 剛．腹腔鏡下腹壁瘢痕ヘルニア修復術における Ventrion と PCO Mesh の症例一致比較．一般示説．
2. 水野 大，有末篤弘，小林めぐみ，佐々木秀策，新田浩幸，大塚幸喜，肥田圭介，佐々木 章，若林 剛．地方大学小児外科における人材確保および卒後教育の現状と問題点．パネルディスカッション．

第 68 回日本食道学会学術集会，東京，2014/07/03 ～ 07/04

1. 木村 祐輔，岩谷 岳，秋山 有史，鴻巣 正史，遠藤 史隆，藤原 久貴，西塚 哲，肥田 圭介，佐々木 章，若林 剛．当科における食道内分泌細胞癌（小細胞型）切除例の検討．一般示説．
2. 岩谷 岳，秋山 有史，鴻巣 正史，木村 祐輔，遠藤 史隆，石田 馨，佐藤 慧，西塚 哲，佐々木 章，若林 剛．食道扁平上皮癌の発生に関連する 17 番染色体 (17q25.1) 領域の遺伝子異常．一般示説．
3. 秋山 有史，岩谷 岳，鴻巣正史，藤原久貴，肥田圭介，大塚幸喜，佐々木 章，水野 大，木村祐輔，若林 剛．食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下食道切除術の治療成績．Poster Presentation．
4. 鴻巣 正史，岩谷 岳，秋山有史，木村祐輔，若林 剛．術前化学療法後 Stage II，II 食道癌に対する周術期治療成績．一般示説．

第 32 回日本肥満症治療学会学術集会，大津，2014/07/04 ～ 07/05

1. 秋山 有史，岩谷 岳，鴻巣正史，藤原久貴，肥田圭介，大塚幸喜，佐々木 章，水野 大，木村祐輔，若林 剛．食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下食道切除術の治療成績．Poster Presentation．
 2. 大淵 徹，佐々木 章，馬場 誠朗，梅邑 晃，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，水野 大，若林 剛．肥満外科治療術前におけるフォーミュラ食療法の有用性．シンポジウム．
 3. 梅邑 晃，佐々木 章，新田 浩幸，大淵 徹，馬場 誠朗，大塚 幸喜，肥田 圭介，岩谷 岳，若林 剛．高度肥満症に対するチーム医療構築での問題点とコーディネーターに求めること、術後栄養管理の諸問題．シンポジウム．
 4. Akira Sasaki, Hiroyuki Nitta, Koki Otsuka, Obuchi Toru, Shigeaki Baba, Akira Umemura, Takeshi Iwaya, Satoshi Nishizuka, Keisuke Koeda, Masaru Mizuno, Go Wakabayashi. Effects of type 2 diabetes mellitus and nonalcoholic fatty liver disease after laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese patients with severe obesity. Symposium.
 5. 馬場 誠朗，佐々木 章，新田 浩幸，大塚 幸喜，梅邑 晃，大淵 徹，岩谷 岳，西塚 哲，肥田圭介，水野 大，石垣 泰，若林 剛．高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果．Poster Presentation．
- * 佐々木 章．シンポジウム第 1 部 周術期管理～食道運動療法の面から～．座長．

第 197 回日本消化器病学会東北支部例会，秋田，2014/07/04

- * 肥田圭介．食道・胃 2. 座長．

第 23 回日本小児泌尿器科学会学術集会，横浜，2014/07/09 ～ 07/11

1. 小林 めぐみ，中村 繁，日向 泰樹，川合 志奈，前田 貢作，中井 秀郎．総排泄腔外反症に対する泌尿器科的治療戦略．学会賞候補演題．

第 22 回日本乳癌学会学術集会，大阪，2014/07/10 ～ 07/12

1. 小松 英明，柏葉 匡寛，石田 和茂，川岸 涼子，松井 雄介，大槻 英恵，上杉 憲幸，石田和之，菅井 有，若林 剛．当科における術前化学療法後のセンチネルリンパ節生検の検討．一般示説．
2. 石田 和茂，柏葉 匡寛，杉村 好彦，飯島 信，中屋 勉，川村 英伸，畠山 元，門間 信博，若林 剛．卵巣および大腸転移を生じた Invasive lobular carcinoma の 1 例．一般示説．

第 69 回日本消化器外科学会総会，郡山，2014/07/16 ～ 07/18

1. 佐々木 章，新田 浩幸，大塚 幸喜，大淵 徹，馬場 誠朗，梅邑 晃，肥田 圭介，水野 大，若林 剛．脾腫瘍と門脈圧亢進症に対する reduced port surgery: 手技の工夫と成績．要望ビデオ．

2. 松尾 鉄平, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 外館 幸敏, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田圭介, 佐々木 章, 若林 剛. 当院における人工肛門閉鎖術の工夫. 一般口演.
3. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 大塚 幸喜, 肥田圭介, 佐々木 章, 若林 剛. 切除可能大腸癌肝転移に対する術前 FOLFOX+bevacizumab の功罪. 一般口演.
4. 秋山 有史, 木村祐輔, 岩谷 岳, 鴻巣正史, 藤原久貴, 肥田圭介, 大塚幸喜, 新田浩幸, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 食道亜全摘術における胃管再建法の安全な吻合手技. ビデオシンポジウム.
5. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 鴻巣 正史, 遠藤 史隆, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 当院における緩和ケアチームの活動状況. 要望演題.
6. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 野田 宏伸, 西成 悠, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章, 若林 剛. 胃粘膜癌のリンパ節転移症例に関する検討. ミニオーラル.
7. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 西塚 哲, 佐々木 章, 若林 剛. 肥満症例に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術後再建法の工夫. 要望演題.
8. 若林 剛. How we could improve surgical quality; Lessons from the best practices in ACS NSQIP. 招待講演.
9. 若林 剛. 優しい消化器癌手術と薬物療法. ランチョンセミナー.
10. 岩谷 岳, 三森 功士, 深川 剛生, 秋山 有史, 鴻巣 正史, 肥田 圭介, 西塚 哲, 森 正樹, 笹子 三津留, 若林 剛. 胃癌進展を制御する microRNA 760 に関する検討. ワークショップ.
11. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 外館 幸敏, 八重樫 瑞典, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛. 進行横行結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技. 一般口演.
12. 大塚 幸喜. 合併症と困難症例から学んだ 安全な腹腔鏡下大腸手術 - Part 1 肥満症例 -. ランチョンセミナー.
13. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 八重樫 瑞典. 腹腔鏡下大腸癌手術に対する桃核承気湯を用いた術前処置の検討. 一般口演.
14. 大淵 徹, 佐々木 章, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛. 肥満合併 T2DM に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果: 年齢, 体格係数, C ペプチド, DM 治療期間による評価. 一般口演.
15. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛. ゲムシタピンと S-1 の両剤の投与既往を有する切除不能及び転移性肝癌に対する modified FOLFIRINOX 療法. 一般口演.
16. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛. 食道癌術前化学療法による術後感染症リスク因子の検討. ミニオーラル.
- * 佐々木 章. 一般演題「食道: 悪性 1」. 座長.
- * 肥田 圭介. 胃十二指腸: 腹腔鏡 1. 座長.

日本プロテオーム学会 2014 年年会, つくば, 2014/07/17 ~ 07/18

1. 西塚 哲. 逆相タンパクアレイ (Reverse Phase Protein Array) と癌研究. 招待講演.

第 28 回キチン・キトサンシンポジウム, 東京, 2014/08/07 ~ 08/08

1. 杉立 彰夫, 久米 浩平, 大森 幸美, 佐藤 慧, 伊藤 千絵, 石田 薫, 伊藤 直子, 西塚 哲, 若林 剛, 高森 吉守. キトサン, アミノレブリン酸, アサチルサリチル酸による抗腫瘍効果. 一般口演.

未来医療開発プロジェクトシンポジウム, 盛岡, 2014/08/07 ~ 08/08

1. 久米 浩平, 西塚 哲, 池田 めぐみ, 三浦 佐和子, 若林 剛. コロニー形成試験を用いた薬剤寛容性細胞集団の分子プロファイリング. 一般示説.

第 52 回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2014/08/28 ~ 08/30

1. 木村 祐輔. 緩和ケアテレビカンファレンスを基盤とした緩和ケア地域連携の構築. 一般口演.
2. 西塚 哲, 久米 浩平, 石田 馨, 佐藤 慧, 大森 幸美, 若林 剛. 薬剤寛容性コロニー形成阻害候補化合物の機能解析. 一般口演.
3. 柏葉 匡寛, 小松 英明, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 大槻 花恵, 上杉 憲幸, 菅井 有, 若林 剛. 術前化学療法耐性 Triple negative 乳癌 (TNBC) の臨床病理学的因子の検証. 一般口演.
4. 小松 英明, 柏葉 匡寛, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 大槻 英恵, 上杉 憲幸, 石田和之, 菅井 有, 若林 剛. 当科におけるセンチネルリンパ節転移陽性症例の検討. 一般示説.
5. 秋山 有史, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 藤原 久貴, 肥田 圭介, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 木村 祐輔, 若林 剛. チームによる食道癌の周術期リハビリテーションの取り組み. 一般示説.
6. 石田 馨, 西塚 哲, 大森 幸美, 久米 浩平, 佐藤 慧, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 若林 剛. ヒト胃癌細胞株を用いた 5-FU 隔日投与モデルによる抗腫瘍効果の評価. 一般口演.
7. 石田 和茂, 柏葉 匡寛, 大槻 花恵, 松井 雄介, 川岸 涼子, 小松 英明, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 脳転移指向性乳癌細胞株を用いた脳転移予測バイオマーカー探索. 一般示説.
- * 若林 剛. 肝がん治療戦略の UP to Date. 司会.

第 50 回日本移植学会総会, 東京, 2014/09/10 ~ 09/12

1. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 武田 大樹, 安藤 太郎, 水野 大, 若林 剛. 生体肝移植における肝動脈再建に大伏在静脈を用いて良好な経過を辿った 1 例. 一般示説.

2. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 若林 剛. ABO 血液型不適合生体肝移植に対する局所療法を用いないプロトコール. 一般示説.

* 若林 剛. 臓器横断的シンポジウム 5 腹腔鏡補助下ドナー手術. 座長.

第 168 回東北外科集談会, 秋田, 2014/09/13

1. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将範, 松尾 鉄平. 技術認定医取得に向けて ~腹腔鏡下大腸手術 いかにも上手にするか・いかに上手になったか~. ランチョンセミナー.
2. 大塚 幸喜. 「認定医取得に向けて」~腹腔鏡下大腸切除術 いかにも上手にするか・いかに上手になったか~. ランチョンセミナー.

第 73 回日本癌学会学術総会, 横浜, 2014/09/25 ~ 09/27

1. 佐藤 慧, 西塚 哲, 久米 浩平, 岩谷 岳, 若林 剛. Evaluation of tumor burden by cell-free DNA in plasma of colorectal cancer patients. Poster Presentation.
2. Satoshi Nishizuka, Kaoru Ishida, Kohei Kume, Kei Sato, Mamoru Nukatsuka, Takashi Kobunai, Teiji Takechi, Go Wakabayashi. Identification of therapeutic target molecule for cancer relapse suppression after 5-FU-based adjuvant chemotherapy. Poster Presentation.
3. Akio Sugitachi, Kohei Kume, Kei Sato, Chie Ito, Yukimi Ohmori, Kaoru Ishida, Naoko Ito, Satoshi Nishizuka, Go Wakabayashi. Antitumor activity with bioactive materials and medical drugs. Poster Presentation.
4. Kohei Kume, Satoshi S Nishizuka, Fumitaka Endo, Hirokatsu Katagiri, Kei Sato, Takeshi Iwaya, Go Wakabayashi. Inhibition of RNA Pol II suppresses the emergence of drug-tolerant cell subpopulations. Oral Presentation.
5. 岩谷 岳, 高橋 佑典, 澤田 元太, 嶋村 徹平, 佐藤 慧, 伊藤 千恵, 久米 浩平, 西塚 哲, 秋山 有史, 森 正樹, 三森 功士, 若林 剛. Overexpression of long noncoding RNA FTX was associated with colorectal cancer progression. 一般示説.

第 27 回日本内視鏡外科学会総会, 盛岡, 2014/10/02 ~ 10/04

1. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 新田 浩幸, 梅邑 晃, 大淵 徹, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛. 副腎良性疾患に対する単孔式腹腔鏡下副腎摘出術: 手技の定型化と位置付け. ワークショップ.
2. 佐々木 章. 大上賞受賞者講演 内科志望医がメスを持った時. 特別講演.
3. 佐々木 章. 内科疾患を手術で治す. ランチョンセミナー.
4. 大淵 徹, 佐々木 章, 新田 浩幸, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛. 甲状腺・副甲状腺疾患に対する内視鏡外科手術の長期成績. ワークショップ.
5. 梅邑 晃, 佐々木 章, 新田 浩幸, 馬場 誠朗, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛. 教室における腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の成績と今後の展望. パネルディスカッション.
6. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 野田 宏伸, 石田 馨, 西成 悠, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 完全鏡視下幽門保存胃切除術の適応と手技の工夫. ワークショップ.
7. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 安藤 太郎, 木村祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 日本から世界に向けて内視鏡外科のエビデンスを発信するために: 腹腔鏡下肝切除におけるエビデンスの構築. 特別企画.
8. 大塚 幸喜. 大腸癌の標準治療が腹腔鏡手術になる前に知っておくべきこと. スポンサーシンポジウム.
9. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 松尾 鉄平. 技術認定医取得までに必要な修練 ~当教室の教育システムについて~. ワークショップ.
10. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 松尾 鉄平. 内視鏡外科技術認定医取得から進行直腸癌への道のり. ランチョンセミナー.
11. 西塚 哲, 田嶋 ティナ宏子. Communication Skills of Japanese MDs in English. 特別企画.
12. 御供 真吾, 有末 篤弘, 藤澤 健太郎, 玉澤 佳之, 佐瀬 正博, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛. 腹腔鏡下生検にて診断しえた結核性腹膜炎の 1 例. 症例報告.
13. 松尾 鉄平, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 藤井 仁志, 吉田 雅一, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 腹腔鏡下 Miles 手術における手術部位感染 (SSI) に対する発生予防対策と危険因子の検討. 一般口演.
14. 肥田 圭介. エキスパートによる体腔内吻合のコツと実践. ランチョンセミナー.
15. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 野田 宏伸, 西成 悠, 鴻巣 正史, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛. 腹腔鏡下胃全摘の定型化への取り組みと課題. シンポジウム.
16. 小林 めぐみ, 水野 大, 西塚 哲, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛. 内視鏡外科手術をテーマとする教室の小児外科分野における工夫. パネルディスカッション.
17. 馬場 誠朗, 亀山 哲章, 佐々木 章, 富田 真人, 三橋 宏章, 宮田 量平, 天田 塩, 若林 剛. 単孔式腹腔鏡下手術における臍創部の閉鎖法. ワークショップ.
18. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 大淵 徹, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛. Reduced port surgery の意義と今後の展望. シンポジウム.
19. 佐々木 章. 糖尿病に対する外科治療. ランチョンセミナー.
20. 大淵 徹, 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 大山 健一, 阿部 薫, 遠野 千尋, 須藤 隆之, 坂下 伸夫, 高金 明典, 吉田 徹, 坂本 隆, 阿部 正, 若林 剛. 岩手医科大学外科における遠隔医療活動. 特別講演.
21. 若林 剛. 動作制限を克服して、拡大視効果を楽しむ. 会長講演.

22. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原武志, 板橋 英教, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 安藤 太郎, 木村祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 普及を目指した腹腔鏡下肝切除術の手術手技. ワークショップ.
23. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸切除術 もう一度基本に立ち返ろう 一脾結腸曲近傍の癌に対する手技ー. スポンサーードシンポジウム.
24. 水野 大, 小林 めぐみ, 佐々木 秀策, 吉田 宗平, 有末 篤弘, 佐々木 章, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 若林 剛. 小児外科疾患に対するアプローチ. パネルディスカッション.
25. 八重樫 瑞典, 木村 聡元, 坂本 隆, 佐藤 直夫, 川崎 雄一郎, 大塚 幸喜, 若林 剛. 腹腔鏡下 S 状結腸切除を施行した完全内臓逆位の 1 例. 一般口演.
26. 鴻巣 正史, 岩谷 岳, 秋山 有史, 塩井 義裕, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 木村 祐輔, 若林 剛. SSI リスク因子における胸腔鏡下食道切除術の意義. 一般口演.
27. 佐々木 章. みんなで学ぼう最新の手術 肥満と糖尿病を手術で治す. 市民公開講演会.
28. 岩谷 岳, 秋山 有史, 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 塩井 義裕, 遠藤 史隆, 藤原 久貴, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛. 高度進行食道癌に対する化学療法後の胸腔鏡下食道切除症例の検討. 一般口演.
29. 秋山 有史, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 木村 祐輔, 若林 剛. 食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下食道切除術の定型化～腹臥位のメリットを生かした術野確保. 一般口演.
30. 小林 めぐみ, 水野 大, 西塚 哲, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛. 腹膜透析カテーテルトラブルに対する腹腔鏡下処置. 一般口演.
31. 梅邑 晃, 佐々木 章, 須藤 隆之, 新田 浩幸, 馬場 誠朗, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛. 内視鏡外科手術の教育と臨床研究. ワークショップ.
 - * 肥田 圭介. ワークショップ 腹腔鏡下幽門保存胃切除術の適応と手技. 座長.
 - * 佐々木 章. ワークショップ 8 Metabolic Surgery: 適応と今後の展望. 司会.
 - * 大淵 徹. 一般演題 124 胆嚢 手術手技. 座長.
 - * 秋山 有史. 一般演題 研修医・専修医. 座長.

第 12 回日本消化器外科大会 (JDDW2014), 神戸, 2014/10/23 ~ 10/26

1. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 西成 悠, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 若林 剛. 肥満胃がん症例における完全腹腔鏡下胃切除術の効果に関する検討. デジタルポスター.

第 22 回日本消化器関連学会週間, 神戸, 2014/10/23 ~ 10/26

1. 若林 剛. IWATE Consensus 報告. 基調講演.
- * 若林 剛. 腹腔鏡下肝切除のコンセンサス. 司会.

第 18 回日本肝臓学会大会, 神戸, 2014/10/23 ~ 10/26

1. 若林 剛. IWATE Consensus 報告. 基調講演.
- * 若林 剛. 腹腔鏡下肝切除のコンセンサス. 司会.

第 69 回日本大腸肛門病学会, 横浜, 2014/11/07 ~ 11/08

1. 大塚 幸喜. Science of Tissue Management の観点から腹腔鏡大腸切除を考える. ランチョンセミナー.
2. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 吉田 雅一, 若林 剛. 腹腔鏡下大腸癌手術の標準化を目指した新しい教育システム. 一般口演.
3. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 松尾 鉄平. 腹腔鏡下直腸癌手術における術前処置の工夫. 一般示説.

第 76 回日本臨床外科学会総会, 郡山, 2014/11/20 ~ 11/22

1. 秋山 有史, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 木村 祐輔, 若林 剛. 食道癌手術における胃管再建の安全な頸部手縫い吻合の手技と成績. ワークショップ.
2. 小林 めぐみ, 水野 大, 西塚 哲, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛. 小児内視鏡外科手術に対する当科の方針. ワークショップ.
3. 梅邑 晃, 佐々木 章, 大塚 幸喜, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 遠野 千尋, 小原 眞, 若林 剛. いわて医療情報ネットワークを利用した遠隔手術指導支援. 一般口演.
 - * 若林 剛. 肝胆膵外科手術の修練方法. 司会.
 - * 佐々木 章. 要望演題 (ビデオ) 手術の工夫 (鼠径ヘルニア 2). 座長.

3-3 研究会・セミナー等

岩手乳腺疾患フォーラム, 盛岡, 2014/01/18

1. 石田 和茂, 飯島 信, 中屋 勉, 川村 英伸, 畠山 元, 門間 信博, 杉村 好彦. 卵巣および大腸転移を生じた Invasive lobular carcinoma の 1 例. 一般口演.

第 80 回大腸癌研究会, 東京, 2014/01/23 ~ 01/24

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸がん手術をいかに上手にするか 一見せて、聞かせる教育 - イブニングセミナー.

第 37 回慶應外科フォーラム総会, 東京, 2014/01/25

1. 長谷川 康. 岩手医科大学での 3 年間の経験. 一般口演.

第 5 回先進医療フォーラム, 東京, 2014/01/25

1. 若林 剛. 最先端の腹腔鏡下肝切除と標準術式への道. シンポジウム.

ファーマシストオンコロジー講演会, 香川, 2014/02/07

1. 柏葉 匡寛. 乳がん薬物療法の進歩とチーム医療の関わり. 特別講演.

内臓脂肪関連疾患対策研究会, 盛岡, 2014/02/14

1. 佐々木 章. 肥満合併 2 型糖尿病患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果. 特別講演.

平成 25 年度日本災害医療実地研修 in 岩手, 盛岡, 2014/02/18

1. 若林 剛. 腹腔鏡コース. イブニングセミナー.

第 13 回肝移植医療フォーラム, 東京, 2014/02/22

1. 片桐 弘勝, 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 菅野 将史, 板橋 英教, 若林 剛. 遅発性十二指腸穿孔で発症した門脈血栓の 1 例. 一般口演.
- * 高原 武志. レシピエントコーディネーターの役割. 座長.

第 11 回日本乳癌学会東北地方会イブニングセミナー, 仙台, 2014/03/01

- * 柏葉 匡寛. HER2 陽性転移性再発乳がんにおける各 HER2 薬の位置づけと将来像. 座長.

第 4 回いわて医療機器事業化研究会, 盛岡, 2014/03/04

1. 若林 剛. 第 27 回日本内視鏡外科学会総会の盛岡開催に向けて. 招待講演.

第 47 回制癌剤適応研究会, 名古屋, 2014/03/07

1. 石田 馨, 西塚 哲, 久米 浩平, 糠塚 守, 佐藤 慧, 遠藤 史隆, 片桐 弘勝, 岩谷 岳, 小武内尚, 武知 貞士, 肥田 圭介, 若林 剛. 5-FU 寛容性胃癌細胞集団における悪性形質の獲得. 一般口演.

第 47 回制癌剤適応研究会, 名古屋, 2014/03/07

1. 西塚 哲, 久米 浩平, 石田 馨, 佐藤 慧, 大森 幸美, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 若林 剛. 薬剤寛容性コロニーを用いた癌再発予防へ向けた基礎的研究. シンポジウム.

The 8th HOKKAIDO ANTI AGING CLUB 2014, 北海道, 2014/03/07 ~ 03/08

- * 若林 剛. ポスター & ディスカッション. 座長.

いわて緩和医療学術講演会, 盛岡, 2014/03/15

- * 木村 祐輔. 特別講演. 座長.
- * 若林 剛. 特別講演. 座長.

Winter Seminar 2014 第 20 回学ぶ会, 北海道 2014/03/14 ~ 03/16

1. 若林 剛. 最新の腹腔鏡下肝切除 ~ 3 年前からの進化 ~. 招待講演.

第 8 回 LAC 情報交換会, 盛岡, 2014/04/12

1. 木村 聡元, 大塚幸喜, 箱崎将規, 松尾鉄平. 技術認定医取得を考える. 基調講演.

第 25 回内視鏡外科フォーラム東北, 仙台, 2014/04/19

1. 長谷川 康, 新田 浩幸, 佐々木 章, 高原 武志, 大淵 徹, 板橋 英教, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 若林 剛. 病的肥満患者に、二期的に腹腔鏡下スリーブ状胃切除と幽門輪温存脾頭十二指腸切除を施行した一例. 一般口演.
2. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 菅野 将史, 梅邑 晃, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛. 肝細胞癌に対する BMI からみた腹腔鏡下肝切除術と開腹肝切除術の成績. 一般口演.
- * 肥田 圭介. 一般演題. 座長.
- * 若林 剛. 特別講演 1. 司会.

第 2 回脳死移植研究会, 東京, 2014/05/7

- * 若林 剛. 総合討論. 司会.

第 3 回岩手外科周術期管理研究会, 盛岡, 2014/05/09

1. 長谷川 康. 大腸癌肝転移に対する腹腔鏡下肝切除時の癒着症例の検討. 一般口演.
2. 岩谷 岳. 食道がん根治術: 周術期管理のトピック. 特別講演.
- * 若林 剛. 『肝がん外科治療を考察する』. 座長.

第 4 回腹腔鏡下スリーブ状胃切除術セミナー, 東京, 2014/05/10

1. 佐々木 章. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の適応と治療成績. 招待講演.

第3回いわて周術期セミナー，盛岡，2014/05/10

1. 長谷川 康，新田 浩幸，高原 武志，板橋 英教，片桐 弘勝，武田 大樹，安藤 太郎，若林 剛．大腸癌肝転移に対する 腹腔鏡下肝切除時の 癒着症例の検討．一般口演．

第68回手術手技研究会，東京都，2014/05/16～05/17

1. 秋山 有史，岩谷 岳，鴻巣 正史，藤原 久貴，肥田 圭介，大塚 幸喜，新田 浩幸，佐々木 章，水野 大，木村 祐輔，若林 剛．食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下食道切除術の手術手技．一般口演．
- * 若林 剛．肝胆膵 6. 座長．

第35回癌免疫外科研究会，大阪，2014/05/22～05/23

1. 千葉 丈広，肥田 圭介，藤原 久貴，中村 聖華，若林 剛．イマチニブ耐性胃 GIST に対し、スニチニブ投与により良好な病勢コントロールが得られている 1 例．一般示説．
2. 若林 剛．癌進展に関わる局所因子．一般口演．

NGS 現場の会 血液核酸マーカー分科会（別称：これからの核酸マーカー分科会），東京都，2014/05/23

1. 佐藤 慧．個別化癌存在診断ツールとしての血中遊離 DNA．一般口演．
- * 西塚 哲．セッション 1. 座長．

第35回癌免疫外科研究会，大阪，2014/05/22～05/23

1. 鴻巣 正史，岩谷 岳，秋山 有史，木村 祐輔，若林 剛．食道癌術前化学療法による周術期感染症リスク因子の検討．一般口演．

第17回岩手内視鏡外科研究会，盛岡，2014/05/31

1. 木村 聡元，大塚 幸喜，箱崎 将規，松尾 鉄平，藤井 仁志，吉田 雅一，外館 幸敏，肥田 圭介，佐々木 章，水野 大，若林 剛．腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術後の会陰ヘルニアに対し腹腔鏡下会陰ヘルニア修復術を施行した 1 例．一般口演．
 2. 板橋 哲也，中村 聖華，青木 毅一，川村 英伸，畠山 元，杉村 好彦．2 人で施行する腹腔鏡補助下大腸癌手術の検討．一般口演．
- * 佐々木 章．一般口演．座長．
- * 若林 剛．【特別講演】．座長．

第6回いわて肥満症治療セミナー，盛岡，2014/06/02

1. 佐々木 章．高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術：非アルコール性脂肪性肝疾患に対する効果．特別講演．

第50回日本肝癌研究会，京都，2014/06/05～06/06

- * 若林 剛．ビデオセッション 5 肝細胞癌の鏡視下治療の最先端．座長．

第18回日本がん分子標的治療学会学術集会，仙台，2014/06/25～06/27

1. 西塚 哲．5-FU 不応性の腫瘍に対する治療戦略．ランチョンセミナー．

第81回大腸癌研究会，名古屋，2014/07/04

1. 木村 聡元，大塚 幸喜，箱崎 将規，松尾 鉄平．高齢者に対する腹腔鏡下大腸癌手術の検討．一般口演．

第32回日本肝移植研究会，東京，2014/07/03～07/04

- * 若林 剛．腹腔鏡下または小切開によるドナー肝切除の是非．司会．

第21回外科フォーラム，東京，2014/07/26

1. 若林 剛．高度進行がんへの拡大手術．シンポジウム．

Team Building Seminar Follow-up Course，東京，2014/08/02

1. 佐々木 章．チームの必要性．講演．

3rd Reduced Port Surgery Forum，福井，2014/08/01～08/02

1. 佐々木 章．患者と術者にやさしい Reduced Port Surgery. ランチョンセミナー．

第41回日本膵切研究会，東京，2014/08/22～08/23

- * 若林 剛．腹腔鏡下膵切除術 1. 司会．

第40回東北小児外科研究会，秋田，2014/09/12

1. 小林 めぐみ，水野 大，吉田 宗平，佐々木 秀策，有末 篤弘，若林 剛．当院初の EXIT にて救命し得た胎児気道閉鎖症の一例．一般口演．

第6回膵臓内視鏡外科研究会，盛岡，2014/10/01

1. 梅邑 晃，佐々木 章，新田 浩幸，高原 武志，長谷川 康，板橋 英教，片桐 弘勝，大塚 幸喜，岩谷 岳，肥田 圭介，若林 剛．当科における腹腔鏡下膵温存膵体尾部切除術の適応と手術手技．一般口演．

第8回日本内視鏡下肥満・糖尿病外科研究会，盛岡，2014/10/01

1. 梅邑 晃，佐々木 章，新田 浩幸，大淵 徹，馬場 誠朗，岩谷 岳，西塚 哲，木村 祐輔，大塚 幸喜，肥田 圭介，水野 大，若林 剛．肥満外科手術後の糖尿病寛解に関する因子とは？．一般口演．

第 17 回東北移植研究会, 仙台, 2014/10/11

* 若林 剛. 特別講演. 座長.

第 7 回いわて外科侵襲フォーラム, 盛岡, 2014/10/17

1. 鴻巣 正史, 岩谷 岳, 秋山 有史, 塩井 義裕, 木村 祐輔, 若林 剛. 当科における食道切除術後頻脈性不整脈の発生要因とその対策. セミナー.

第 44 回胃外科・術後障害研究会, 富士, 2014/10/30 ~ 10/31

1. 肥田 圭介, 馬場 誠朗, 中島 潤, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 西成 悠, 佐々木 章, 若林 剛. Cine MRI による胃切除術後の胃運動機能評価～とくに幽門保存胃切除術後機能評価に関して～. 特別企画.

第 4 回みちのく LAG セミナー, 盛岡, 2014/11/08

* 千葉 丈広. これでわかる! 腹腔鏡下幽門側胃切除術のコツ. 座長.

仙台外科医会学術講演会, 仙台市, 2014/11/14

1. 佐々木 章. 糖尿病に対する外科治療の可能性. 講演.

第 8 回肝臓内視鏡外科研究会, 郡山, 2014/11/19

1. 若林 剛. Challenges and evolution in laparoscopic hepatectomy in liver cancer. 招待講演.
2. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 若林 剛. 大腸癌肝転移に対する肝切除術式の変遷—当院における経験から. 一般口演.

第 24 回外科漢方研究会 学術集会, 福島, 2014/11/21

1. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 松尾 鉄平. 腹腔鏡下大腸癌手術の周術期管理における桃核承気湯の使用経験. ワークショップ.

第 21 回外科浸襲とサイトカイン研究会, 徳島, 2014/12/13

1. 若林 剛. 敗血症の病態と治療 1. コメンテーター.

4. 講演会

第 5 回先進医療フォーラム, 東京, 2014/01/25

1. 若林 剛. 最先端の腹腔鏡下肝切除と標準術式への道. シンポジウム.

九州大学 LAG ビデオクリニック, 福岡, 2014/06/28

1. 肥田圭介. 当科の腹腔鏡下胃切除 (脾上縁リンパ節郭清). セミナー.

第 7 回 キッズ外科手術体験, 盛岡, 2014/07/06

1. 若林剛. セミナー趣旨説明. 一般口演.

未来医療開発プロジェクトシンポジウム, 盛岡 2014/08/07 ~ 08/08

1. 若林 剛. 未来医療ターゲットとしてのストレスシグナル. 座長.

第 7 回いわて外科侵襲フォーラム, 盛岡, 2014/10/17

1. 鴻巣 正史, 岩谷 岳, 秋山 有史, 塩井 義裕, 木村 祐輔, 若林 剛. 当科における食道切除術後頻脈性不整脈の発生要因とその対策. セミナー.

五稜郭病院モーニングレクチャー, 函館, 2014/11/26

1. 西塚 哲. 薬剤不応性腫瘍への治療戦略. 招待講演.

編集後記

例年より大変遅れましたが、無事に教室年報を発刊することができました。寄稿して頂いた皆様に感謝申し上げます。

佐々木章教授が就任されてはじめての教室年報であり、担当も大塚先生から自分に移行した号となりました。コアスタッフで話し合った結果、隔年で内容を厚く（関連施設からの寄稿など）しようという方針となり、本年度は例年よりちょっと薄く、白黒の部分も多くなりました。申し訳ございません……。来年度は頑張ります。

新たなスタートとなりましたが、教室員一同この教室を盛り上げるよう頑張りますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

（文責 新田浩幸）



表紙説明

撮影：2015.5.23

橋野高炉跡(はしのこうろあと)は、現存する日本最古の洋式高炉跡で、2015年7月に世界遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として登録されました。この鉄の町・釜石の地で盛岡藩士大島高任(たかとう)の指導により日本産業製鉄の礎が築かれたそうです。

巖刀会 (がんとうかい: 岩手山別称(巖鷲山)から1字とり、岩手の外科医の象徴の意)